

2022年12月期 通期決算 概要

The AGC logo is displayed in a white rectangular box on the right side of the slide. It consists of the letters 'AGC' in a bold, blue, sans-serif font. A small red square is positioned above the letter 'C'.

AGC株式会社

2023年2月8日

Your Dreams, Our Challenge

AGC

2022年12月期 通期決算 概要	P.03
2022年12月期 通期業績	P.04
1. 業績のポイントと主要項目	P.05
2. セグメント別・地域別の状況	P.13
2023年通期業績見通し	P.20
付属資料	P.28

2022年12月期通期業績

		前期比
売上高	20,359 億円	+3,385億円
営業利益	1,839 億円	▲222億円
親会社の所有者に帰属する 当期純利益	▲32 億円	▲1,270億円

- 売上高は戦略事業の拡大や、製品販売価格の上昇、為替影響から過去最高
- 営業利益はディスプレイの大幅な需要減、原燃材料高の影響から前年比減益
- 大規模な減損損失の計上に伴い当期純損失を計上

2023年12月期通期見通し

		前期比
売上高	21,500 億円	+1,141億円
営業利益	1,900 億円	+61億円

- クロールアルカリ事業が前年比で減益となる見込みだが、自動車用ガラスをはじめとする他のコア事業や戦略事業の伸長に加え、減損による減価償却費減もあり増収・増益

2022年12月期 通期業績

1. 業績のポイントと主要項目

2022年12月期 通期業績

* うち、為替差影響は+1,682億円、連結範囲変更の影響は▲198億円

(億円)

	FY2021 通期	FY2022 通期	増減	主な変動要因
				(+)増加要因 (-)減少要因
売上高	16,974	20,359	+ 3,385 [*]	(+) ライフサイエンス製品、フッ素関連製品の出荷増加 (+) 建築用ガラス、クロールアルカリ製品、自動車用ガラスの販売価格上昇 (+) 円安
営業利益	2,062	1,839	▲ 222	上記に加え、 (-) 欧州を中心に原燃材料価格高騰 (-) ディスプレイの大幅な需要減
税引前利益	2,100	585	▲ 1,515	上記に加え、 (+) 土地売却益 (+) 関係会社売却益 (-) 前年同期に北米建築用ガラス事業譲渡益を計上 (-) ディスプレイ事業、プリント基板材料事業、ロシア事業、欧州自動車用ガラス事業で減損損失を計上
親会社の所有者に帰属する 当期純利益	1,238	▲ 32	▲ 1,270	
為替レート (期中平均)	1USD	JPY 109.80	JPY 131.43	
	1EUR	JPY 129.89	JPY 138.04	
原油 (Dubai,期中平均)	USD/BBL	69.23	96.34	

2022年 その他費用内訳

(億円)






	FY2022	備考
その他収益	272	
その他費用	▲1,539	
為替差損	▲40	
固定資産除却損	▲86	
減損損失	▲1,284	ディスプレイ、プリント基板材料、ロシア建築用ガラス・自動車用ガラス、欧州自動車用ガラス
事業構造改善費用	▲96	欧州ガラス事業の構造改革など
その他	▲31	

(億円)

	金額	回収可能性変更の要因
ディスプレイ	737	TV・PC販売の伸び悩み、円安・原燃材料高騰によるコスト増
プリント基板材料	322	米中貿易摩擦及び中国における新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた需要減
ロシアにおける建築用・自動車用ガラス	建築用：99 自動車用：37	ロシア・ウクライナ情勢の長期化に伴う経済環境の悪化
欧州自動車用ガラス(ロシアを除く)	67	ロシア・ウクライナ情勢を契機とした自動車需要の低迷

セグメント別業績 前年比較

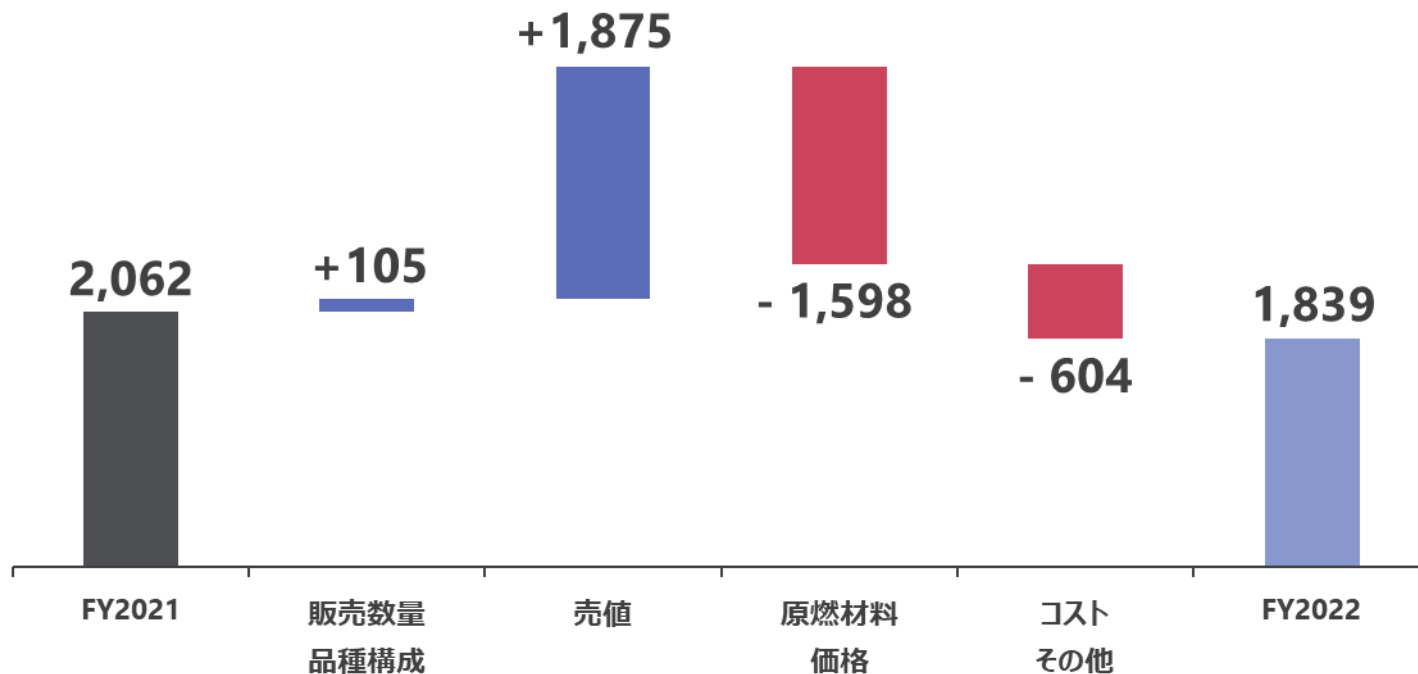
(億円)

	FY2021 通期 (a)		FY2022 通期 (b)		増減 (b)-(a)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
 ガラス	7,343	273	9,015	229	+ 1,673	▲ 44
 電子	3,050	368	3,072	147	+ 22	▲ 221
 化学品	6,308	1,388	7,952	1,429	+ 1,644	+ 42
 セラミックス・その他	794	35	866	37	+ 72	+ 2
 消去	▲ 520	▲ 2	▲ 547	▲ 3	▲ 26	▲ 1
連結合計	16,974	2,062	20,359	1,839	+ 3,385	▲ 222

営業利益増減要因分析(FY2022 vs. FY2021)

前年比 222億円減益

(億円)



	2021/12	2022/12	増減 (億円)	
現金及び現金同等物	1,958	2,097	+ 139	
棚卸資産	3,301	4,365	+ 1,064	
有形固定資産・無形資産及びのれん	15,067	15,148	+ 81	● 為替影響 減損損失影響 ▲ 1,284億円
その他	6,334	6,530	+ 196	
資産合計	26,660	28,140	+ 1,480	● 為替影響 + 1,752億円
有利子負債	6,032	6,502	+ 470	
その他	5,815	5,782	▲ 33	
負債の部	11,847	12,284	+ 438	
親会社の所有者に帰属する持分合計	13,142	13,903	+ 761	
非支配持分	1,672	1,953	+ 281	
資本の部	14,814	15,856	+ 1,042	● 為替影響 + 1,210億円
負債及び資本合計	26,660	28,140	+ 1,480	
D/E比率	0.41	0.41		

通期	FY2021	FY2022	(億円)
税引前利益	2,100	585	
減価償却費及び償却費	1,668	1,857	
運転資金増減	▲ 307	▲ 854	
その他	▲ 194	584	
営業活動によるCF	3,267	2,171	
投資活動によるCF	▲ 1,238	▲ 1,453	
フリーキャッシュフロー	2,029	718	
有利子負債増減	▲ 2,158	17	
支払配当	▲ 310	▲ 522	
その他	▲ 54	▲ 277	
財務活動によるCF	▲ 2,523	▲ 782	
現金等に係る換算差額	90	203	
現金等の増加額	▲ 403	139	

設備投資・減価償却費等

通期	FY2021	FY2022	(億円)
設備投資額	2,165	2,366	
ガラス	509	473	
電子	696	800	
化学品	942	1,080	
セラミックス・その他	22	14	
消去	▲ 3	▲ 2	
減価償却費	1,668	1,857	
ガラス	546	565	
電子	603	684	
化学品	500	590	
セラミックス・その他	20	19	
消去	▲ 1	▲ 1	
研究開発費	494	523	

主な設備投資案件

- 自動車用製造窯修繕（ガラス）
- ディスプレイ製造窯修繕（電子）
- ディスプレイ中国G11投資（電子）
- 電子部材製造設備増強（電子）
- 東南アジアクロールアルカリ能力増強（化学品）
- フッ素関連製品能力増強（化学品）
- バイオ医薬品能力増強（化学品） など

主な減価償却費増加要因

- 電子部材製造設備増強（電子）
- ディスプレイ中国G11投資（電子）
- 東南アジアクロールアルカリ能力増強（化学品）
- バイオ医薬品能力増強（化学品） など

2. セグメント別・地域別の状況

通期	FY2021	FY2022	(億円) 増減
売上高	7,343	9,015	+ 1,673 *
建築用ガラス	3,811	4,827	+ 1,016
自動車用ガラス	3,511	4,176	+ 665
(セグメント間)	20	12	
営業利益	273	229	▲ 44

* うち、為替差影響は+793億円、連結範囲変更の影響は▲132億円

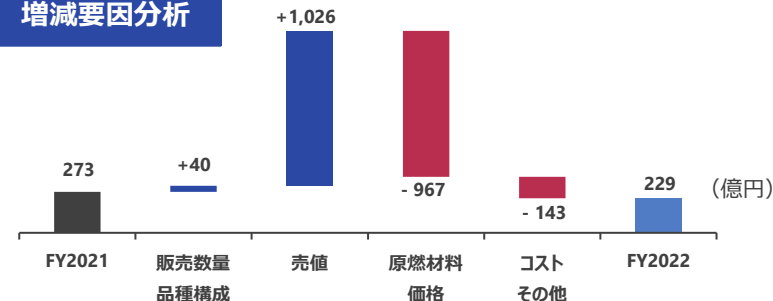
建築用ガラス

- 欧州を中心とした全ての地域で販売価格が上昇し、北米事業売却による減収影響をカバー
- 欧州の天然ガス価格高騰の影響はエネルギーサーチャージにより吸収も、その他原燃材料高の影響を受ける

自動車用ガラス

- 半導体を含む部品供給不足の影響の緩和を受け出荷が増加するも、コロナ禍前のレベルには届かず
- 欧州を中心に価格改定効果が発現するも原燃材料高の影響を受ける

営業利益 増減要因分析



営業利益 構成比 共通費配賦前



通期	FY2021	FY2022	(億円) 増減
売上高	3,050	3,072	+ 22*
ディスプレイ	1,821	1,554	▲ 267
電子部材	1,210	1,495	+ 285
(セグメント間)	19	23	
営業利益	368	147	▲ 221

* うち、為替差影響は+143億円、連結範囲変更の影響は▲58億円

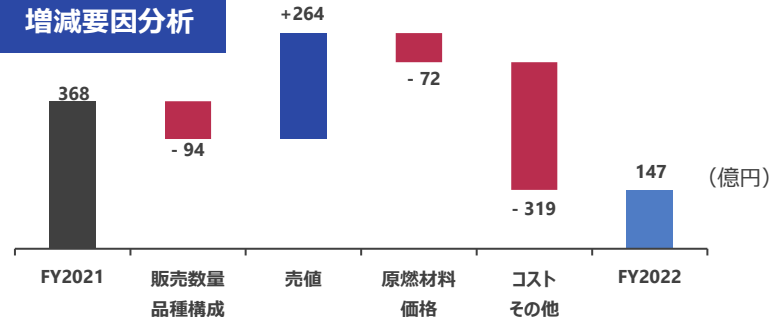
ディスプレイ

- 液晶用ガラス基板は、需要が期後半から想定以上に減少し、出荷が減少。
- 液晶用ガラス基板は、為替および原燃材料高の影響により製造原価が上昇したことに加え、新規設備立ち上げにより減価償却費が増加
- ディスプレイ用特殊ガラスの出荷が減少

電子部材

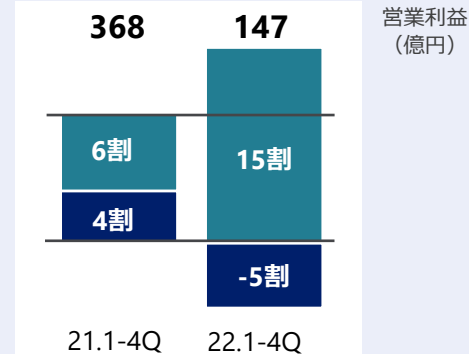
- オプトエレクトロニクス用部材および半導体関連製品は、出荷が堅調に推移したことに加え、為替の影響などにより増収

営業利益 増減要因分析



営業利益 構成比 共通費配賦前

電子部材
ディスプレイ



通期	FY2021	FY2022	増減
売上高	6,308	7,952	+ 1,644*
クロールアルカリ・ウレタン	3,904	4,898	+ 994
フッ素・スペシャリティ	1,239	1,561	+ 322
ライフサイエンス	1,152	1,472	+ 320
(セグメント間)	13	20	
営業利益	1,388	1,429	+ 42

(億円)

* うち、為替差影響は+723億円、連結範囲変更の影響は▲9億円

クロールアルカリ・ウレタン

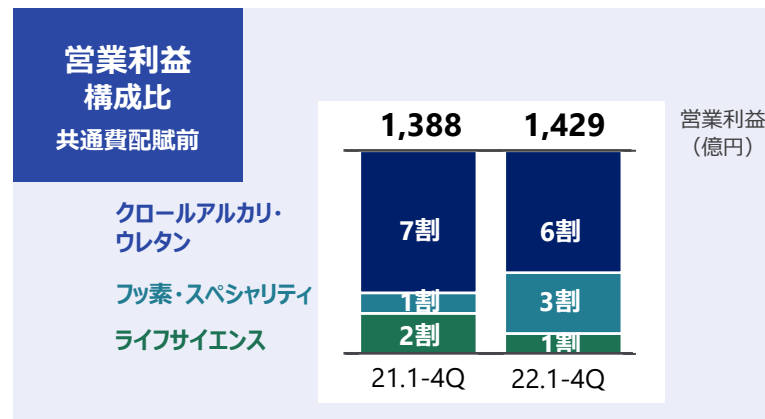
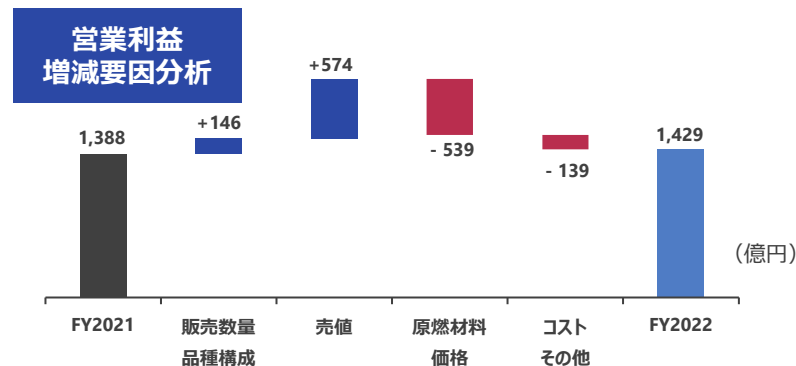
- 苛性ソーダ等の市況が堅調に推移したことに加え、円安の影響もあり増収

フッ素・スペシャリティ

- 半導体関連向けを中心にフッ素関連製品の出荷が大きく増加

ライフサイエンス

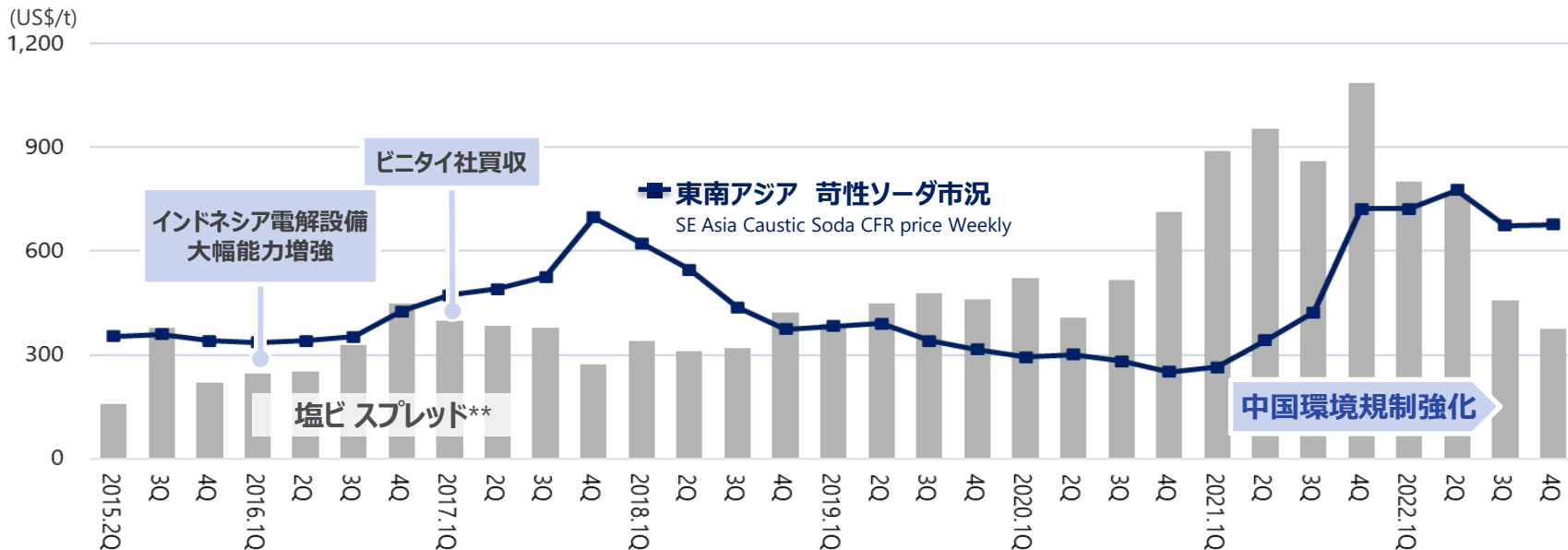
- 合成医農薬CDMO・バイオ医薬品CDMOの受託売上が増加
- 能力増強に伴い先行費用が増加



(ご参考) 東南アジア 苛性ソーダ、塩ビ市況

- 苛性ソーダは引き続き高値で推移
- 塩ビ価格は3Q以降世界的な景気減速を背景とした需要減少等の影響を受け下落、スプレッドも縮小

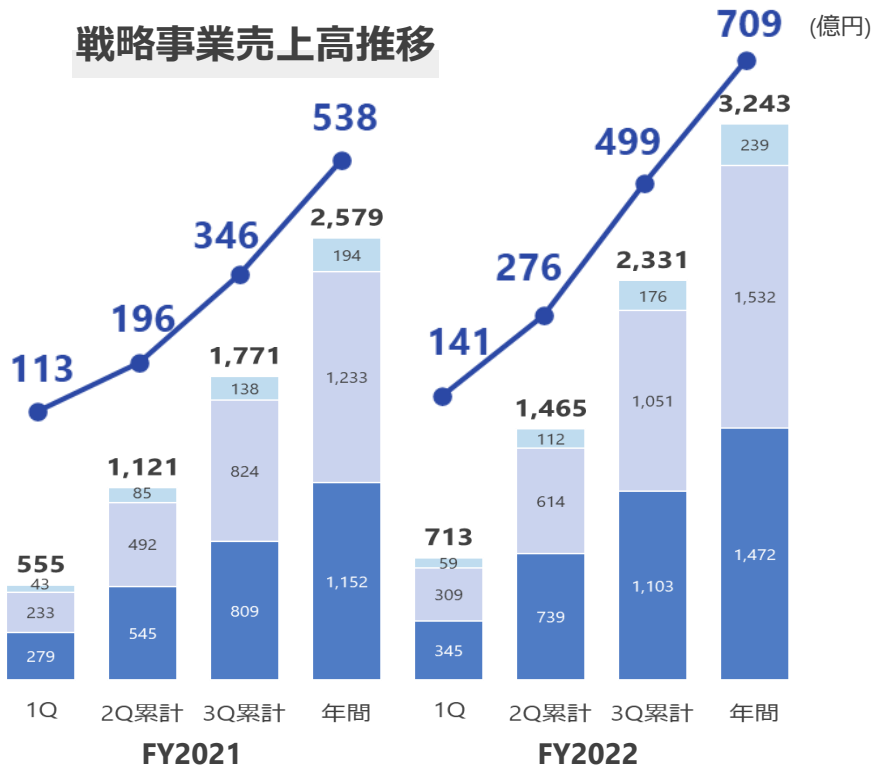
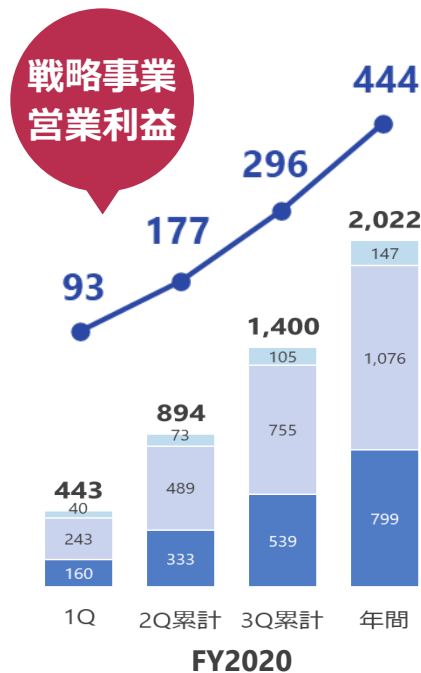
東南アジア クロールアルカリ市況 推移*



*Bloomberg月末データをもとに作成

**塩ビスプレッド：塩ビ市況 - (エチレン市況×0.5)で計算

■ 順調に業績拡大



主な製品・事業

■ モビリティ

- 車載ディスプレイ用カバーガラス
- モビリティ新規部材
(含5G通信)






■ エレクトロニクス

- 半導体関連部材
- オプトエレクトロニクス用部材
- 次世代高速通信用部材
- エレクトロニクス用フッ素製品

■ ライフサイエンス

- 合成医農薬CDMO
- バイオ医薬品CDMO

セグメント別 ROCE・EBITDA

	営業利益		EBITDA*		ROCE		営業資産		(億円)
	2021	2022	2021	2022	2021	2022	2021	2022	
 ガラス	273	229	819	794	4.6%	3.6%	6,000	6,300	
(ご参考) 建築ガラス	—	327	—	566	—	10.9%	—	3,000	
(ご参考) オートモーティブ	—	▲ 98	—	227	—	▲ 3.0%	—	3,300	
 電子	368	147	971	830	5.9%	2.6%	6,250	5,650	
 化学品	1,388	1,429	1,887	2,020	21.5%	18.1%	6,450	7,900	
(ご参考) 化学品	—	1,261	—	1,736	—	23.3%	—	5,400	
(ご参考) ライフサイエンス	—	169	—	284	—	6.7%	—	2,500	
 セラミックス・その他	35	37	55	56	14.0%	18.4%	250	200	
 消去ほか	▲ 2	▲ 3	▲ 3	▲ 4	—	—	—	—	
合計	2,062	1,839	3,729	3,696	10.9%	9.2%	18,950	20,050	

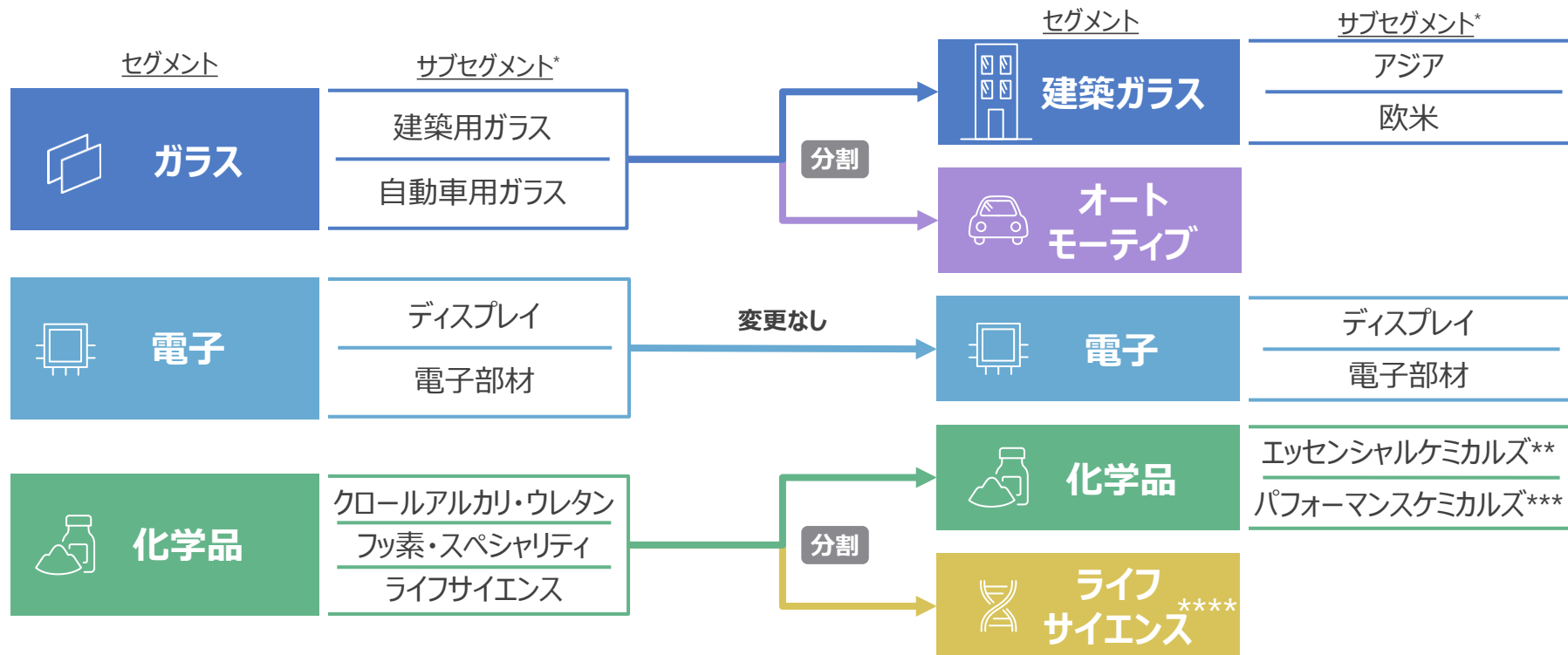
* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

2023年通期業績の見通し

セグメント変更について

変更前

変更後



*各セグメント内の製品またはマーケットごとの売上高の内訳区分

**クロールアルカリ・ウレタンから名称変更

***フッ素・スペシャリティから名称変更

****従来ライフサイエンスに含まれていたファインシリカ事業はパフォーマンスケミカルズに移動

2023年 通期業績見通し

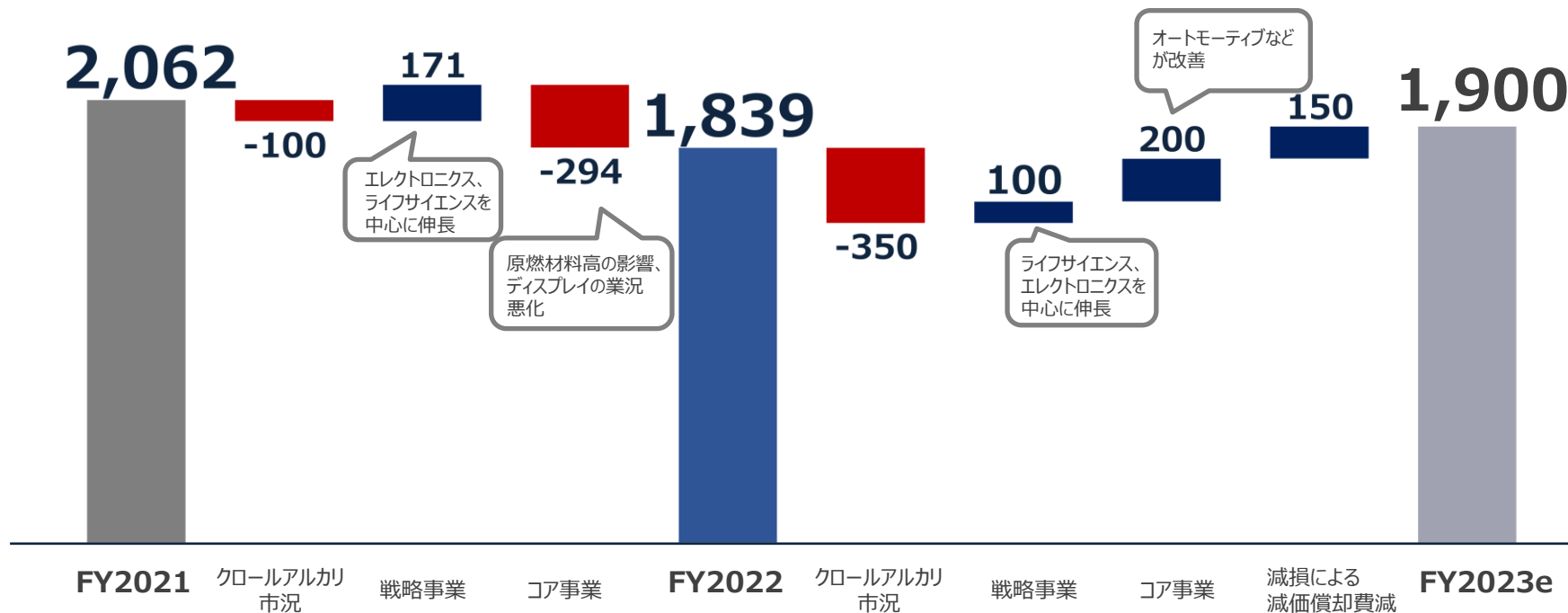
- エssenシャルケミカルズ*が昨年比で減益となる見込みだが、オートモーティブ*をはじめとする他のコア事業や戦略事業の伸長に加え、減損損失による減価償却費減もあり増収・増益

		FY2022	FY2023 予想	(億円)
売上高		20,359	21,500	
	(上期)	9,783	10,300	
営業利益		1,839	1,900	
	(上期)	1,153	750	
税引前利益		585	1,470	
親会社の所有者に帰属する 当期純利益		▲ 32	870	
1株当たり配当 (円)		210	210	
営業利益率		9.0%	8.8%	
ROE		-	6.3%*	
為替レート (期中平均)	JPY/USD	131.4	125.0	
	JPY/EUR	138.0	135.0	
原油 (Dubai,期中平均)	USD/BBL	96.3	85.0	
エチレン(CFR SEA)	USD/MT	1,054	1,000	

* FY2023予想のROEは、2022年12月末時点の親会社の所有者に帰属する持分合計を使用しています。

2023年 営業利益見通し







FY2021~2023営業利益推移 (億円)



※2022-23年の営業利益推移は50億円単位の概算のため合計は一致しません

セグメント別 売上高/営業利益見通し

(億円)

	FY2022 (a)		FY2023予想 (b)		増減 (b)-(a)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
 建築ガラス	4,837	327	5,000	360	+ 163	+ 33
 オートモーティブ	4,178	▲ 98	4,700	80	+ 522	+ 178
 電子	3,072	147	3,400	380	+ 328	+ 233
 化学品	6,604	1,261	6,500	850	▲ 104	▲ 411
 ライフサイエンス	1,418	169	1,600	210	+ 182	+ 41
 セラミックス・その他	866	37	800	20	▲ 66	▲ 17
 消去	▲ 616	▲ 3	▲ 500	0	+ 116	+ 3
連結合計	20,359	1,839	21,500	1,900	+ 1,141	+ 61

2023年 見通し



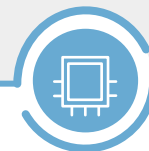
建築ガラス

- 欧州ではインフレや景気減速などの懸念があるものの、エネルギー削減のための高断熱ガラスへの置き換え需要が出荷を支えする
- 日本・アジアでは、高断熱・遮熱ガラス需要拡大などにより出荷が堅調に推移する



オートモーティブ

- 半導体を中心とした部品供給不足の影響の緩和により自動車生産台数が緩やかに回復し、当社出荷も増加
- 従来より取り組んできた価格政策の更なる効果発現を見込む



電子

ディスプレイ

- 液晶用ガラス基板は構造改革施策の推進に加え、需要の回復と減価償却費負担の減少により収益が改善
- ディスプレイ用特殊ガラスは主要なお客様向けからの受注が拡大し、出荷が増加

電子部材

- オプトエレクトロニクス用部材はスマートフォン市場の減速により踊り場となるが、半導体関連部材はEUV露光用フォトマスクブランクスを中心に堅調に推移
- プリント基板材料は通信インフラや車載向け需要の拡大などにより出荷が増加

2023年 見通し



化学品

エッセンシャルケミカルズ

- 昨年末をボトムに市況は緩やかな回復を見込むが、年間では前年水準を下回る

パフォーマンスケミカルズ

- 半導体関連、輸送機器分野を中心にフッ素関連製品の需要が堅調に推移し、出荷が増加



ライフサイエンス

- 合成医農薬CDMO・バイオ医薬品CDMOの受託件数が増加
- 能力増強に伴い、費用が先行して発生する見通し

設備投資額・減価償却費・研究開発費

年間	FY2022	FY2023e	(億円)
設備投資額	2,366	3,000	
建築ガラス	175	250	
オートモーティブ	298	270	
電子	800	930	
化学品	649	950	
ライフサイエンス	431	580	
セラミックス・その他	14	20	
消去	▲ 2	0	
減価償却費	1,857	1,880	
建築ガラス	239	240	
オートモーティブ	325	330	
電子	684	620	
化学品	475	520	
ライフサイエンス	115	150	
セラミックス・その他	19	20	
消去	▲ 1	0	
研究開発費	523	580	

主な設備投資案件

- ディスプレイ中国G11投資（電子）
- 電子部材関連製造設備増強（電子）
- 東南アジアクロールアルカリ能力増強（化学品）
- バイオ医薬品能力増強（ライフサイエンス）

など

付属資料

営業利益に対するインパクト

為替



1%円高で
5億円*減益

*JPYに対して全ての通貨が
同じ割合で動いた場合の
影響額

ドバイ原油



1バレルあたり
1ドル上昇した場合
4.2億円*減益

*ヘッジ影響除く

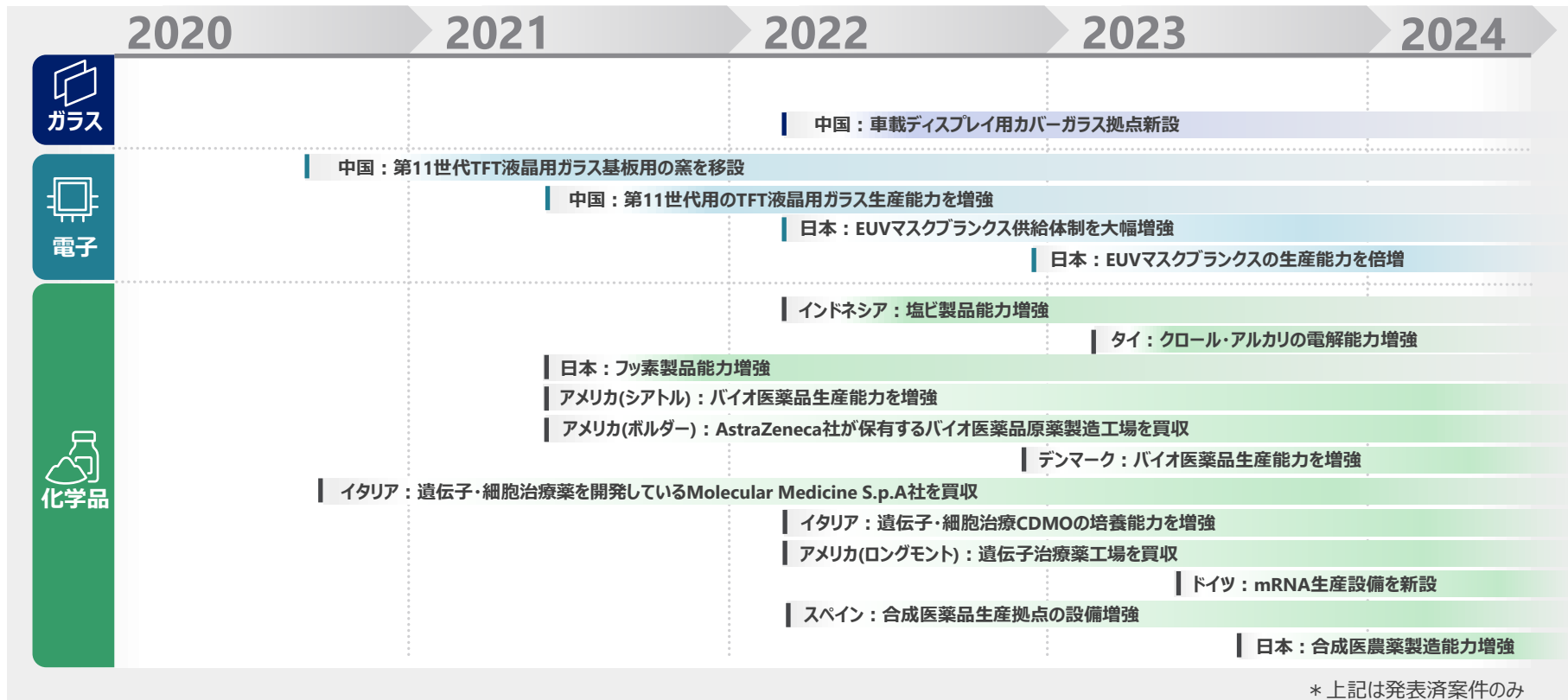
化学品市況



- ① 苛性ソーダ
国際市況が\$1下がると\$1Mの減益
- ② 塩ビスプレッド
\$1下がると\$1.2Mの減益*

*塩ビスプレッド：塩ビ市況－
(エチレン市況×0.5)

AGC plus-2023 主要な投資案件



* 上記は発表済案件のみ

カーボン・ネットゼロ目標（2050年）

2021年に中長期のGHG削減目標を策定し、着実に推進



2030年 マイルストーン（2019年比）

Scope 1	GHG排出量 (Scope 1+2排出量)	30%削減
Scope 2	GHG排出量売上高原単位 (Scope 1+2排出量/売上高)	50%削減
Scope 3	GHG排出量 (Scope 3排出量のうち、カテゴリ1、10、11、12の合計)	30%削減

事業ポートフォリオ変革
戦略事業の拡大により、
排出量削減を上回るペースで
炭素効率を改善

DXの加速による競争力の強化

コーポレートトランスフォーメーション第2章の梃子として、単独のプロセスの効率化(改善)に加え、サプライチェーンをつないでお客様や社会に価値提供する取り組み(革新)に進化

技術・技能

<技術>

最新デジタル技術、
デジタルツール など



<技能>

IE、VA/VE、QC、
データサイエンス など



AGCグループの
競争優位性を高め、
経済的、社会的価値
を創出

人材育成

2020年実績 2022年実績 2025年目標

上級
データサイエンスによる自部門の課題解決

39名 → 68名 → 100名

基礎・応用

データサイエンス手法の習得
プログラミング言語の習得

素材開発や、生産・販売・物流などの
業務知識に加え、高度なデータ解析スキル
を有する「二刀流人材」を育成

入門レベル

データサイエンスの一般教養

1,735名 → 3,500名 → 5,000名
(グローバル)

体制・風土

<取り組みレベル>

経産省DX推進指標に基づく自己点検
2020年 2.1 → 22年 3.5
(先行企業レベル)

<体制強化>

2023年 1月
デジタル・イノベーション推進部を新設
(改善と革新を加速)

<組織風土改革>






チャレンジする意欲、
組織や国・地域を越えて学び合う文化
を醸成



DX銘柄2022
Digital Transformation

社会的価値と経済的価値を同時に実現し成長

■ ポートフォリオ変革とサステナビリティ経営の推進により実現

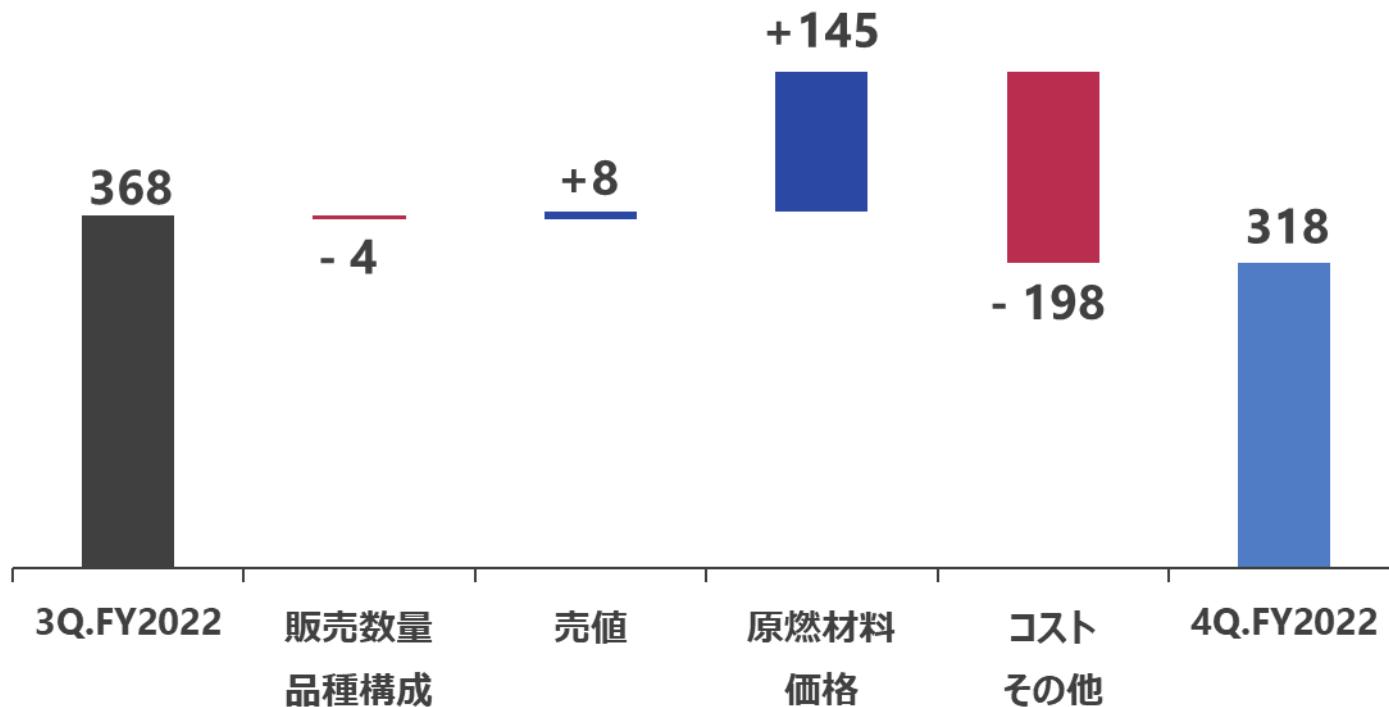
		2022年(実績)	2023年	2025年	2030年	2050年	
経済的価値	営業利益	1,839億円	1,900億円	2,500億円	3,000億円以上		
	戦略事業 営業利益	709億円	800億円	1,200億円	1,600億円以上		
	EBITDA*	3,696億円	3,780億円	4,800億円			
	ROE	-	6.3%	安定的に10%以上			
	D/E比率	0.41	0.5以下				
社会的価値	GHG関連				GHG排出量 30%削減**	GHG排出量 売上高原単位 50%削減	カーボン・ネットゼロ を目指す (Scope1+2)
	非財務資本	グループガバナンス、人財、研究開発の強化					
<p style="text-align: center;">創出したい社会的価値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 25%; padding: 5px;">■ 安心・健康な暮らしの実現への貢献  <li style="width: 25%; padding: 5px;">■ 安全・快適な都市インフラの実現への貢献  <li style="width: 25%; padding: 5px;">■ 持続可能な地球環境の実現への貢献  <li style="width: 25%; padding: 5px;">■ 公正・安全な働く場の創出への貢献  <li style="width: 25%; padding: 5px;">■ 健全・安心な社会の維持への貢献  							

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 **Scope1+2排出量、Scope3排出量（カテゴリ1,10,11,12）における削減目標

営業利益増減要因分析(4Q.FY2022 vs. 3Q.FY2022)

前四半期比 49億円減益

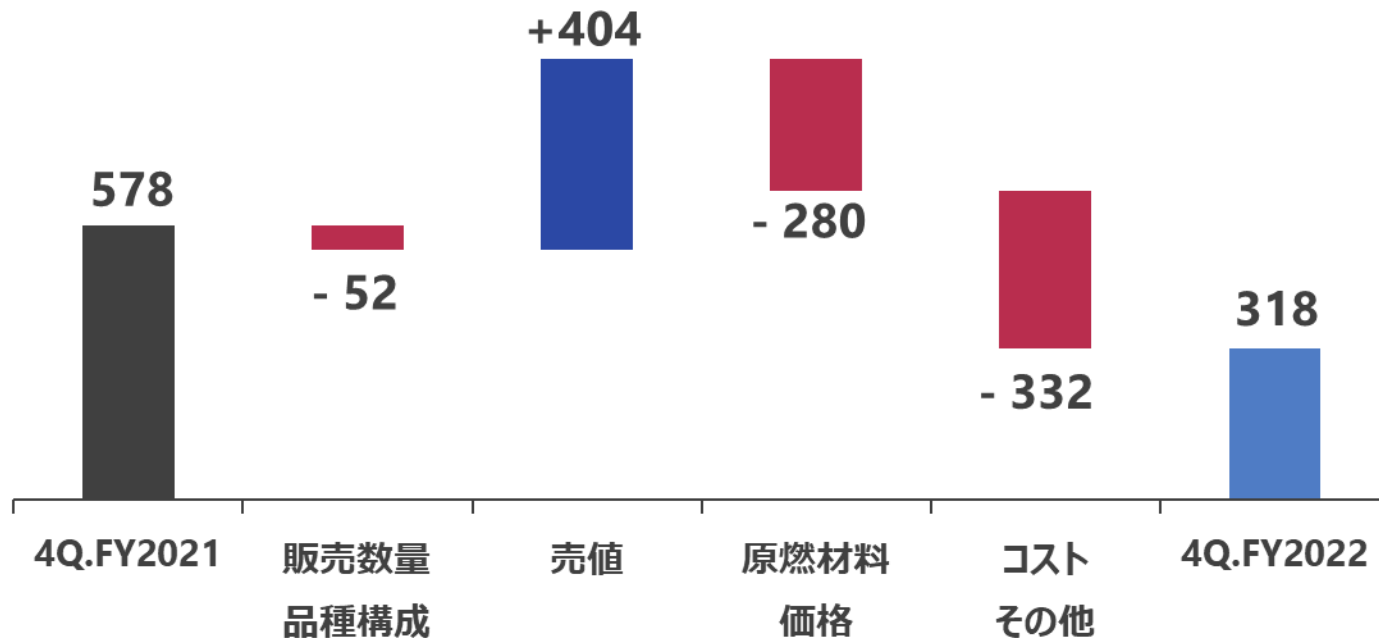
(億円)



営業利益増減要因分析(4Q.FY2022 vs. 4Q.FY2021)

前年同期比 260億円減益

(億円)








地域別業績 前年比較

通期	FY2021	FY2022	増減	(億円)
売上高	16,974	20,359	+ 3,385	
日本・アジア	11,244	13,027	+ 1,783	
アメリカ	1,750	2,078	+ 327	
ヨーロッパ	3,980	5,254	+ 1,274	
営業利益	2,062	1,839	▲ 222	
日本・アジア	1,986	1,871	▲ 115	
アメリカ	100	72	▲ 28	
ヨーロッパ	375	314	▲ 62	
地域共通費用	▲ 399	▲ 417	▲ 18	

為替影響
+1,682億円
連結範囲変更の影響
▲198億円






売上高 セグメント・地域別展開 前年同期比較

(億円)

		日本・アジア	アメリカ	ヨーロッパ	セグメント間	合計
 ガラス	4Q .FY2022	986	322	1,196	4	2,508
	4Q .FY2021	829	220	845	3	1,896
建築用ガラス	4Q .FY2022	405	99	826	-	1,330
	4Q .FY2021	347	61	604	-	1,011
自動車ガラス	4Q .FY2022	581	222	370	-	1,174
	4Q .FY2021	482	159	241	-	881
 電子	4Q .FY2022	725	81	2	6	814
	4Q .FY2021	774	84	4	5	868
 化学品	4Q .FY2022	1,539	152	264	5	1,961
	4Q .FY2021	1,436	130	231	3	1,800
 セラミックス・その他	4Q .FY2022	103	-	-	115	218
	4Q .FY2021	86	-	-	146	233
 消去	4Q .FY2022	-	-	-	▲ 131	▲ 131
	4Q .FY2021	-	-	-	▲ 158	▲ 158
合計	4Q .FY2022	3,354	555	1,462	-	5,370
	4Q .FY2021	3,126	434	1,079	-	4,639

売上高 セグメント・地域別展開 前年累計比較

(億円)

		日本・アジア	アメリカ	ヨーロッパ	セグメント間	合計
 ガラス	FY2022	3,601	1,170	4,233	12	9,015
	FY2021	3,132	1,046	3,144	20	7,343
建築用ガラス	FY2022	1,469	327	3,031	-	4,827
	FY2021	1,202	439	2,170	-	3,811
自動車ガラス	FY2022	2,132	843	1,202	-	4,176
	FY2021	1,930	607	975	-	3,511
 電子	FY2022	2,771	267	11	23	3,072
	FY2021	2,743	275	12	19	3,050
 化学品	FY2022	6,281	640	1,010	20	7,952
	FY2021	5,043	429	823	13	6,308
 セラミックス・その他	FY2022	374	-	-	492	866
	FY2021	326	-	-	468	794
 消去	FY2022	-	-	-	▲ 547	▲ 547
	FY2021	-	-	-	▲ 520	▲ 520
合計	FY2022	13,027	2,078	5,254	-	20,359
	FY2021	11,244	1,750	3,980	-	16,974

ガラス	4Q.20	1Q.21	2Q.21	3Q.21	4Q.21	1Q.22	2Q.22	3Q.22	4Q.22	(億円)
売上高	1,851	1,806	1,912	1,729	1,896	1,976	2,172	2,358	2,508	
建築用ガラス	901	891	991	916	1,011	1,038	1,214	1,244	1,330	
自動車用ガラス (セグメント間)	943 7	908 7	915 6	808 5	881 3	935 3	956 2	1,111 2	1,174 4	
営業利益	53	95	106	51	21	40	74	23	92	
電子	4Q.20	1Q.21	2Q.21	3Q.21	4Q.21	1Q.22	2Q.22	3Q.22	4Q.22	
売上高	792	695	690	797	868	760	722	777	814	
ディスプレイ	458	461	429	474	457	450	420	346	338	
電子部材 (セグメント間)	316 19	230 4	257 5	318 5	405 5	304 5	296 6	425 6	470 6	
営業利益	106	87	55	103	123	80	12	31	24	
化学品	4Q.20	1Q.21	2Q.21	3Q.21	4Q.21	1Q.22	2Q.22	3Q.22	4Q.22	
売上高	1,296	1,373	1,508	1,626	1,800	1,922	2,090	1,980	1,961	
クロールアルカリ・ウレタン	755	822	940	1,030	1,112	1,217	1,298	1,199	1,184	
フッ素・スペシャリティ	278	269	299	329	343	356	393	410	403	
ライフサイエンス (セグメント間)	260 3	279 3	265 4	265 3	343 3	345 4	393 5	365 6	369 5	
営業利益	180	255	340	365	427	452	474	303	201	

数量・価格動向

前年同四半期比 (YoY)

				2021				2022			
				1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
ガラス	建築用ガラス (AGC)	日ア	数量	+1割	+1割強	-1桁半ば	横ばい	+1割	+1割強	+1桁半ば	-1割弱
			価格	-1桁半ば	+数%	+1割	+1割強	+2割弱	+約2割	+2割強	+2割
		欧州	数量	微増	+約3割	+1割弱	+3割弱	+10%台半ば	微減	-10%台半ば	-2割強
			価格	+1割弱	+4割弱	+4割弱	+4割弱	+4割強	+約6割	+8割弱	+約5割
	自動車用生産台数 (IHS Markit 12/15データより)	日本	数量	-4%	+55%	-23%	-17%	-13%	-14%	+25%	+7%
		北米	数量	-4%	+132%	-26%	-14%	-2%	+12%	+23%	+8%
	欧州・ロシア	数量	+1%	+84%	-32%	-23%	-18%	-4%	+22%	+2%	
電子	ディスプレイパネル需要* (Omdia社)	グローバル	面積	+17%	+10%	-3%	+4%	+22%	+6%	-12%	-5%

市況実績値

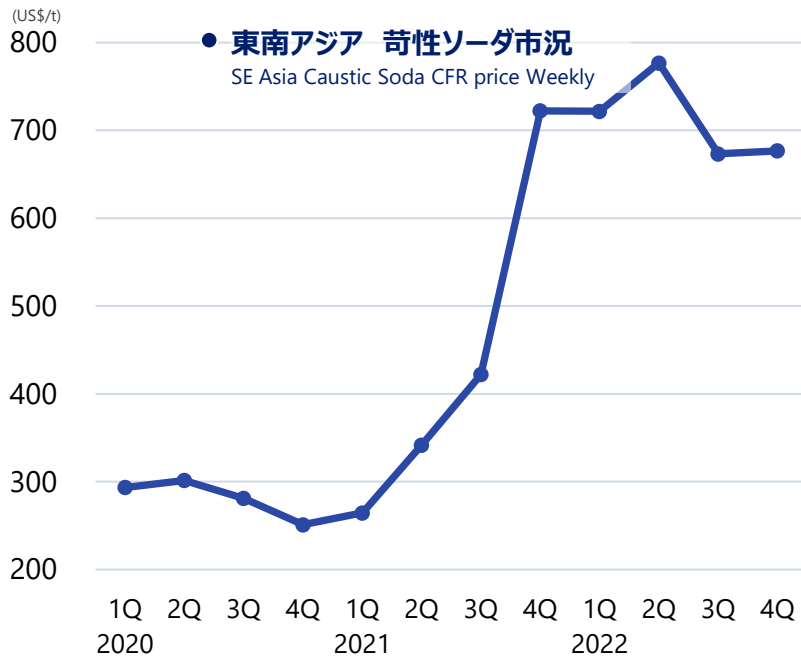
化学品	東南アジアクロアリ (Bloombergより)	苛性ソーダ	価格 USD/MT	264	342	422	722	722	777	673	677
		PVC	価格 USD/MT	1,367	1,437	1,363	1,613	1,407	1,350	933	823
		エチレン	価格 USD/MT	955	963	1,007	1,055	1,213	1,175	952	895

*Source : Omdia-Display Long-Term Demand Forecast Tracker – 3Q22 Pivot

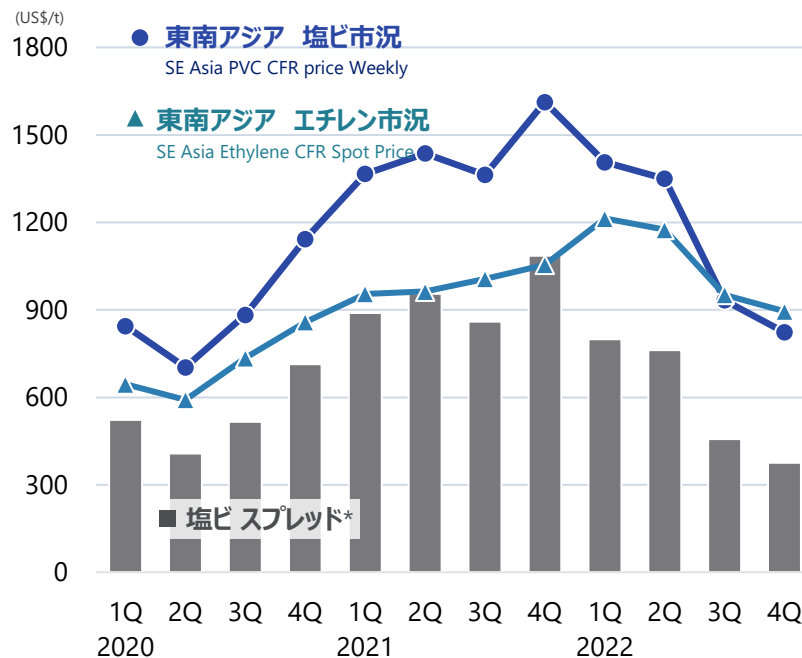
Results are not an endorsement of AGC Inc. Any reliance on these results is at the third-party's own risk.

(ご参考) 東南アジア 苛性ソーダ、塩ビ市況

苛性ソーダ市況



塩ビ市況



*塩ビスプレッド：塩ビ市況 - (エチレン市況×0.5)で計算

		IFRS				
		18/12	19/12	20/12	21/12	22/12
売上高	百万円	1,522,904	1,518,039	1,412,306	1,697,383	2,035,874
営業利益	百万円	120,555	101,624	75,780	206,168	183,942
営業利益率	%	7.9	6.7	5.4	12.1	9.0
親会社の所有者に帰属する当期純利益	百万円	89,593	44,434	32,715	123,840	△ 3,152
自己資本当期純利益率 (ROE) *1	%	7.7	3.9	2.9	10.2	△ 0.2
総資産営業利益率 (ROA) *2	%	5.4	4.4	3.1	7.9	6.7
自己資本比率	%	51	50	44	49	49
D / E (有利子負債・純資産比率)	倍	0.43	0.47	0.63	0.41	0.41
営業CF / 有利子負債	倍	0.35	0.32	0.29	0.54	0.33
一株当たり当期純利益 (EPS) *3	円	399.51	200.85	147.84	559.11	△ 14.22
一株当たり配当金	円	115	120	120	210	210
EBITDA *4	百万円	259,425	231,857	208,459	383,226	253,209
為替レート (期中平均)	円/ドル	110.43	109.05	106.82	109.80	131.43
	円/ユーロ	130.42	122.07	121.81	129.89	138.04

*1 親会社の所有者に帰属する当期純利益/親会社の所有者に帰属する持分合計 (期中平均) *2 営業利益/総資産 (期中平均) *3 当社は、2017年7月1日をもって普通株式5株を1株に併合しています。一株当たり当期純利益は株式併合の影響を踏まえて換算しています。 *4 EBITDA (支払利息・税金・減価償却費控除前利益) = 税引前利益 + 減価償却費 + 支払利息

その他の財務指標についてはこちらを参照ください  https://www.agc.com/ir/pdf/data_all.pdf

📅 発表日	📄 内容
1月25日	EUV露光用フォトマスクブランクの生産能力を倍増
4月6日	スペイン合成医薬品生産拠点の設備増強を決定
5月6日	タイでクロール・アルカリ事業の能力増強を決定
5月10日	Solvay Soda Ash Joint VentureおよびSolvay Soda Ash Extension Joint Venture の全株式の譲渡を決定
5月13日	地球温暖化係数の低い次世代冷媒AMOLEA®1123の新組成を開発
5月18日	AGC Biologics社、米国における遺伝子・細胞治療CDMOの製造能力を増強
6月8日	「DX銘柄2022」に選定
6月10日	Scope 3 排出量の削減目標を設定
7月26日	AGC Glass Europe社、Lowカーボンガラスの発売を発表
10月3日	国内バイオCDMO 製造能力拡大の検討を本格化
10月11日	インドネシア・タイで生産する建築用ガラスの環境製品宣言（EPD）を取得
10月17日	AGCグループ、インドネシア（アサヒマス・ケミカル社）で再エネ由来の電力購入契約を締結
11月2日	ライフサイエンスカンパニーを新設
12月13日	CDPから「気候変動」の分野で最高評価「Aリスト」に選定
12月23日	艾杰旭特種玻璃（大連）有限公司の異動（持分譲渡）に関するお知らせ
1月12日	SBTi から温室効果ガス削減目標「WB2°C」の認定を取得

■ 社会的課題の解決に向け、事業活動を通じた5つの社会的価値を創出

安全・快適な都市インフラ
の実現への貢献



建築用Low-Eガラス



自動車用UVカットガラス



塩化ビニル樹脂

安心・健康な暮らしの
実現への貢献



医薬品（中間体・原体）



農薬（中間体・原体）



農業温室ハウス用フィルム

健全・安心な社会の
維持への貢献



地域社会との関係



周辺環境への配慮



サプライチェーンの人権

公正・安全な働く場の
創出への貢献



職場環境の安全



多様性



従業員エンゲージメント

持続可能な地球環境の
実現への貢献



気候変動問題への対応



資源の有効利用

サステナビリティ “製品・技術”を通じて社会的価値を創出

重要機会

AGCグループの 主な素材・ソリューション

社会的価値

気候変動問題への対応

- 建築用ガラス ■ 自動車用赤外線カットガラス
- バイオマスボイラー用炉材 ■ グリーン冷媒 等

資源の有効利用

- 燃料電池用部材
- リサイクル原料使用製品（ガラス・耐火物等）

持続可能な地球環境の実現への貢献



社会インフラの整備

- 建築用ガラス ■ 苛性ソーダ
- 次亜塩素酸ソーダ ■ 重曹 ■ 塩ビ 等

安全・快適な
モビリティの実現

- 自動車用ガラスアンテナ
- 車載センシング・レーダー用部材 ■ HUD部材 等

情報化・IoT社会の構築

- 建物窓取付アンテナ ■ 半導体製造用部材
- ディスプレイ用ガラス ■ 高速通信用部材 等

安全・快適な都市インフラの実現への貢献



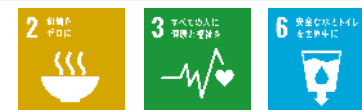
食糧問題への対処

- 農薬原体・中間体
- 農業温室ハウス用フィルム 等

健康・長寿社会への対応

- 医薬品原体・中間体 ■ 高速通信用部材
- 水処理用高機能膜 等

安心・健康な暮らしの実現への貢献



サステナビリティ “健全な企業活動”を通じて社会的価値を創出

重要リスク

AGCグループの 企業活動

社会的価値

気候変動問題への対応

- 継続的な省エネ対策実施
- GHG排出量を低減する生産技術・設備開発 等

資源の有効利用

- 再生原材料や再生資材の活用
- 埋立て処分の削減 等

社会・環境に配慮した
サプライチェーン

- 人権尊重・環境保護を重視したサプライヤー管理 等

地域社会との関係・
環境配慮

- 水使用量削減 ■ 生物多様性保全
- 環境事故撲滅 ■ 地域のファン作り 等

公正・平等な雇用と
職場の安全確保

- 従業員エンゲージメントの向上
- 重篤災害・休業災害の発生防止 等

持続可能な地球環境の実現への貢献



健全・安心な社会の維持への貢献

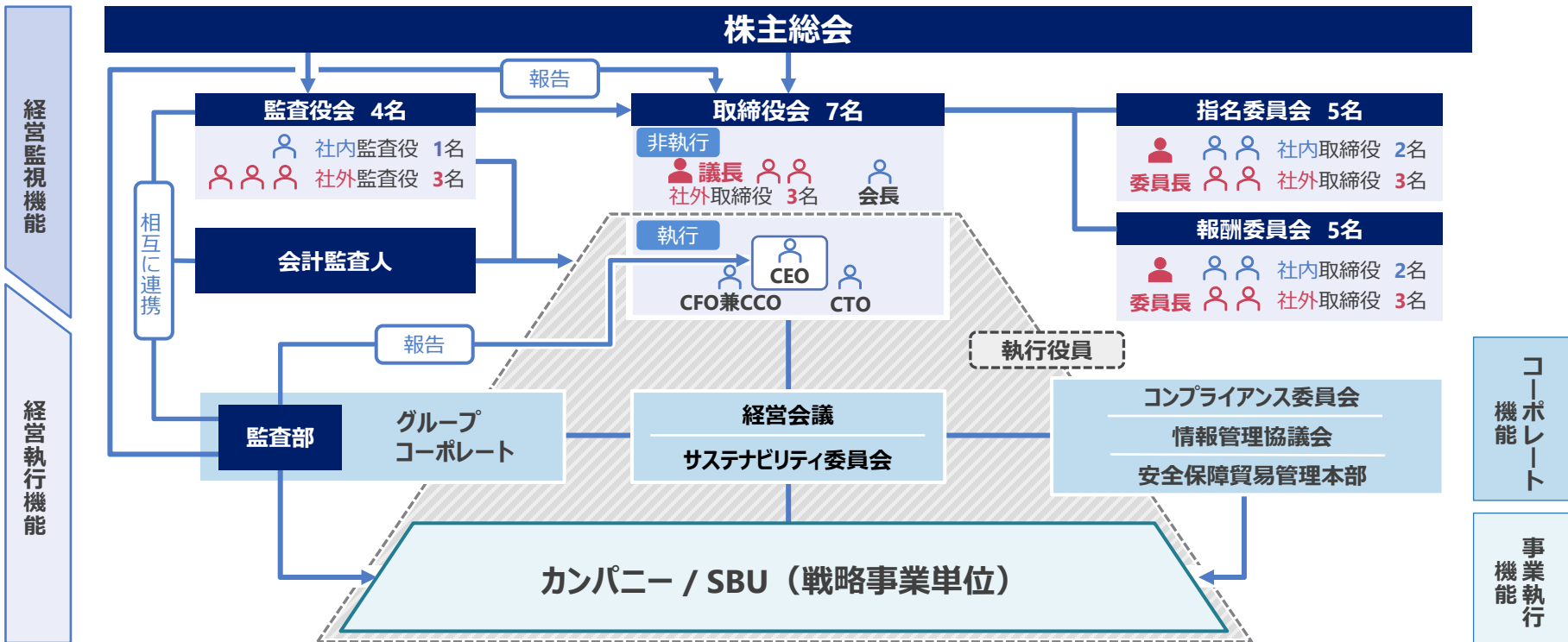


公正・安全な働く場の創出への貢献



当社のコーポレートガバナンス体制の概要図

👤 : 社内出身の取締役又は監査役 👤👤 : 独立性が確保された社外取締役又は社外監査役





FTSE4Good Index Series に選定



FTSE Blossom Japan Index に選定



CDP Climate Change A 評価



「第5回日経スマートワーク経営調査」4星 の格付けを獲得



女性活躍推進に優れた企業を選定する「なでしこ銘柄」に昨年選定



「健康経営優良法人2022ホワイト500」に選定



EcoVadisサプライヤー評価で **最高ランク** を取得

「PLATINUM」：鹿島工場、AGC Pharma Chemicals Europe社
他国内外複数拠点で高評価

Derwent Top 100 グローバル・イノベーター 2022 に選定



「DX銘柄2022」に選定

予測に関する注意事項：

本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

この資料の著作権はAGC株式会社に帰属します。

いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。

The logo for AGC, consisting of the letters 'AGC' in a bold, blue, sans-serif font. A small red square is positioned between the 'A' and the 'G'.

Your Dreams, Our Challenge

中期経営計画 *AGC plus-2023* の進捗

The AGC logo is displayed in a white box on the right side of the slide. It consists of the letters 'AGC' in a bold, blue, sans-serif font. A small red square is positioned between the 'A' and the 'G'.

AGC株式会社

2023年2月8日

Your Dreams, Our Challenge

- 2021年中計発表時の目標数値はROEを除き大幅に上回る見通したが、昨年上方修正した営業利益およびROEの目標は未達となる見通し

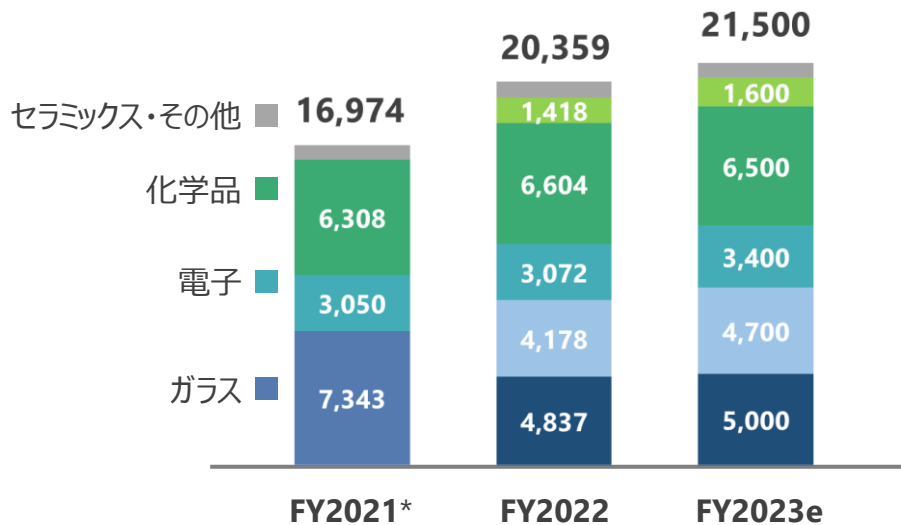
	FY2021実績	FY2022実績	FY2023予想	ご参考	
				FY2023目標 (2021/2/5発表)	FY2023目標 (2022/2/8発表)
営業利益	2,062億円	1,839億円	1,900億円	1,600億円	2,300億円
ROE	10%	-	6.3%*	8%	10%
戦略事業 営業利益	538億円	709億円	800億円	700億円	800億円
D/E比率	0.41	0.41	0.5以下	0.5以下	0.5以下

* FY2023予想のROEは、2022年12月末時点の親会社の所有者に帰属する持分合計を使用しています。

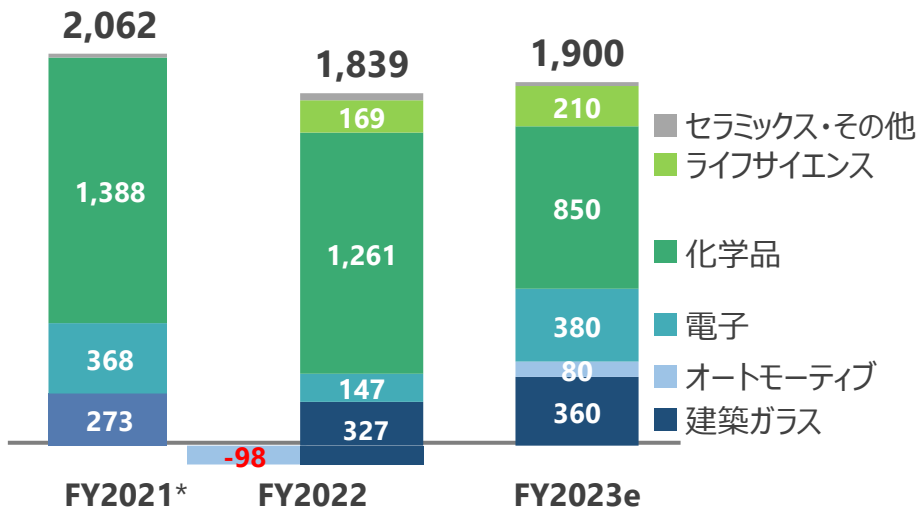
	事業	主要課題*	23年の対応
戦略事業	エレクトロニクス	<ul style="list-style-type: none"> ・EUVマスクブランクスを始めとする高付加価値製品の拡大 ・継続的に新ビジネスを創出 	引き続き高付加価値製品を拡大 プリント基板材料は収益の抜本的な改善を図る
	ライフサイエンス	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムリーな投資の実施により、事業を拡大 ・グローバル展開・技術対応力を強みに高い成長を 	市場成長に合わせ積極投資を継続
	モビリティ	<ul style="list-style-type: none"> ・CASEによる市場変化を見据え、事業機会を確実に捉える ・中国で車載ディスプレイ用ガラス量産を開始し、収益貢献 	車載ディスプレイ用カバーガラスを中心に 事業を伸長
コア事業	ディスプレイ	<ul style="list-style-type: none"> ・中国市場の需要増に対応、長期安定的な事業基盤を構築 	収益の抜本的な改善を図る
	エッセンシャルケミカルズ	<ul style="list-style-type: none"> ・タイ、インドネシアでの増設を通じ、東南アジアの事業基盤を一段と強化 	東南アジア地域での競争力を引き続き強化
	パフォーマンスケミカルズ	<ul style="list-style-type: none"> ・高付加価値化と事業領域拡大で、グローバルニッチ市場の需要取り込み ・環境課題を事業機会に変える 	需要成長に応じて積極的に事業拡大
	建築ガラス	<ul style="list-style-type: none"> ・業界再編を見据え構造改革を実施 ・投資を最小化、生産集約などにより資産効率を高める 	市況変動に強い体質づくりを継続
	オートモーティブ	<ul style="list-style-type: none"> ・生産性改善とコスト削減を着実に進め、収益性を改善、キャッシュ創出力を強化 	積極的な価格政策の実行、 生産効率の改善を継続

AGC plus-2023 のセグメント業績 進捗

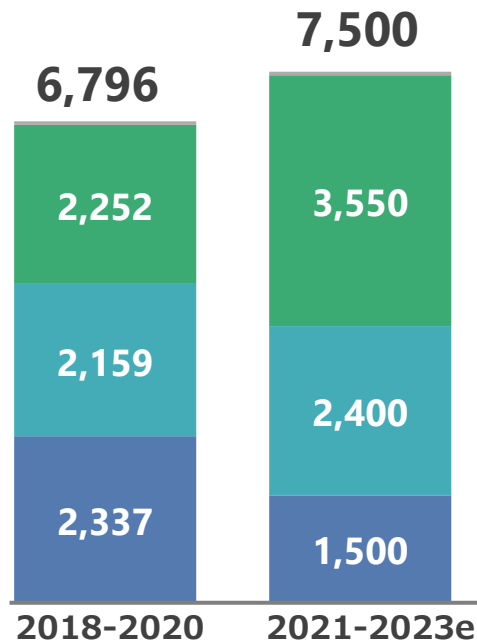
売上高 (億円)



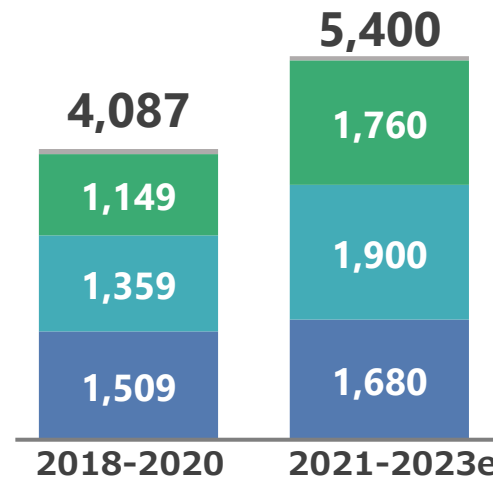
営業利益 (億円)



設備投資* (単位：億円)



減価償却費* (単位：億円)

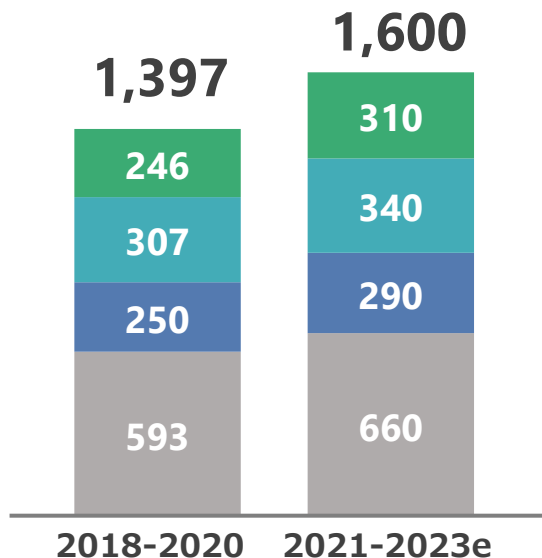


■ ガラス ■ 電子 ■ 化学品 ■ セラミックス・その他 (コーポレート)

* 2021年～2023年までの中期経営計画の累計なので旧セグメントで表示

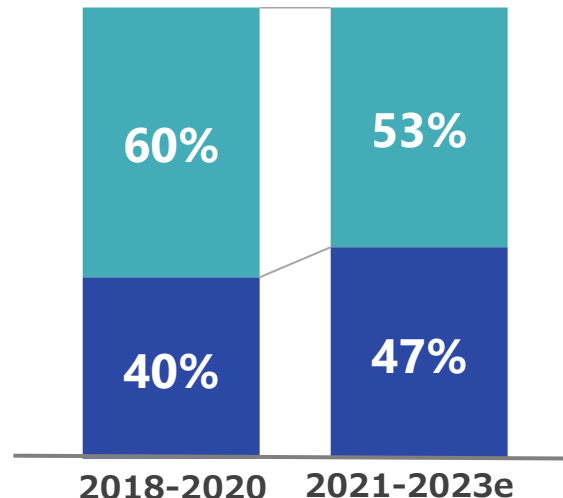
研究開発費*

(単位：億円)



■ ガラス ■ 電子 ■ 化学品 ■ セラムックス・その他 (コーポレート)

研究開発費構成比



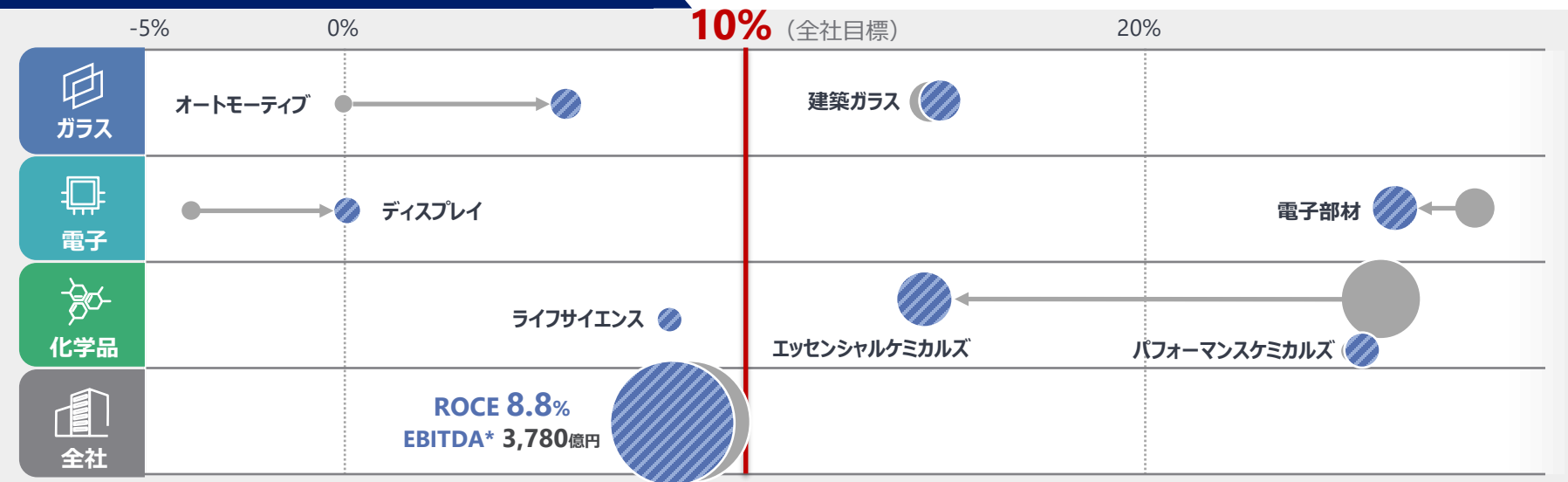
■ 戦略事業 ■ コア事業

* 2021年～2023年までの中期経営計画の累計なので旧セグメントで表示

各事業のROCEイメージ

- 引き続き全社ROCEを**10%以上**を目指す

ROCE 【 ● 2022年実績 vs ● 2023年度見込み 】



ROCE = (当年度営業利益予想) ÷ (当年度末営業資産残高予想)、全社営業利益は共通費配賦後、事業別の営業利益は共通費用配賦前

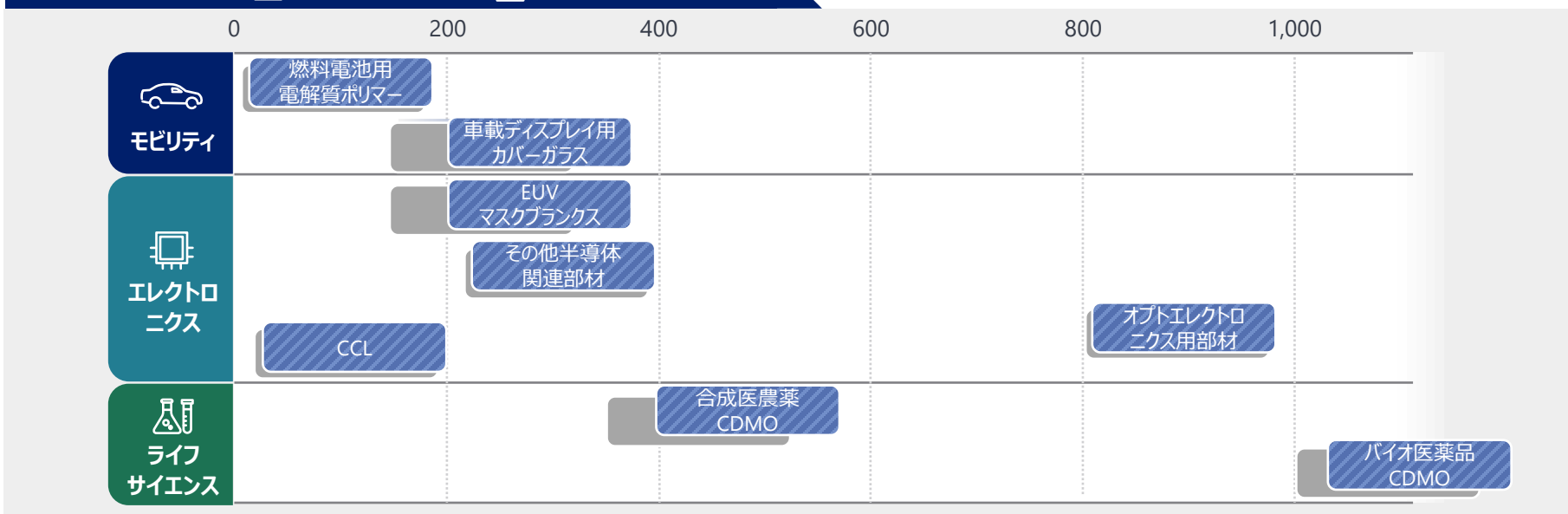
円の直径 (除く全社) : EBITDAの大きさ

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

戦略事業 各製品群の売上高見通し

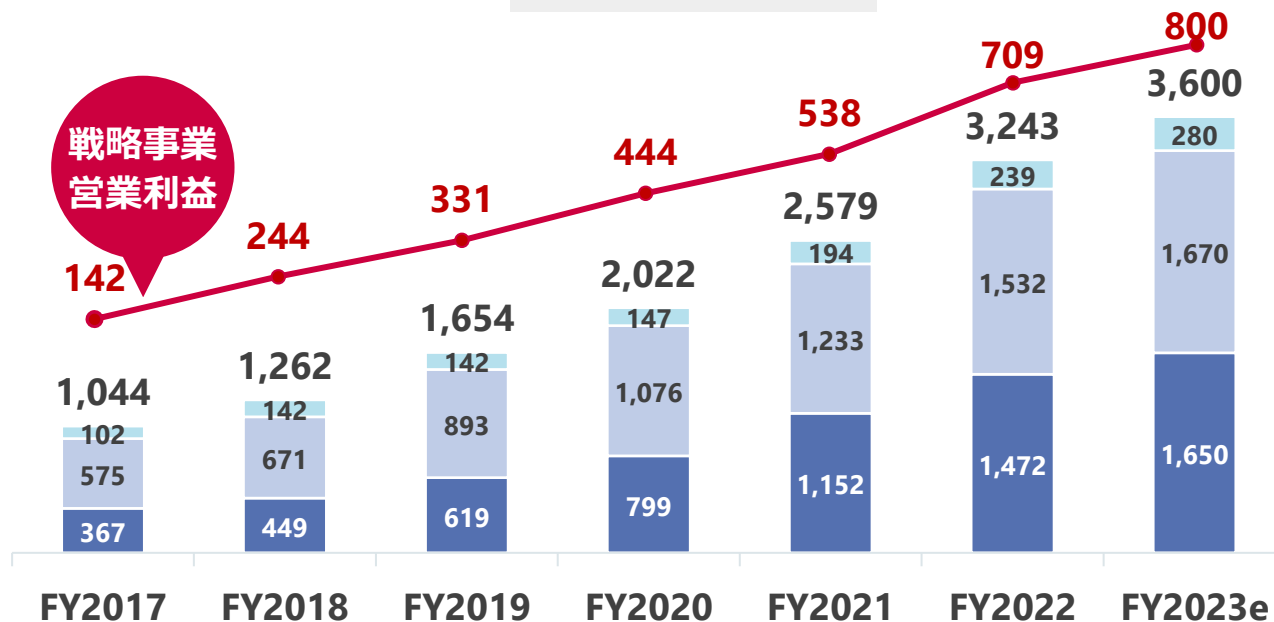
- 2023年はオプトエレクトロニクス用部材は一旦踊り場も、ライフサイエンス、EUVマスクブランクス、車載ディスプレイ用ガラスが伸長し戦略事業全体では堅調に拡大継続

売上規模（億円）【 2022年実績 vs 2023年度見込み】



■ 順調に業績拡大する見込み

戦略事業売上高推移 (億円)



主な製品・事業

■ モビリティ

- 車載ディスプレイ用カバーガラス
- モビリティ新規部材 (含5G通信)

■ エレクトロニクス

- 半導体関連部材
- オプトエレクトロニクス用部材
- 次世代高速通信用部材
- エレクトロニクス用フッ素製品

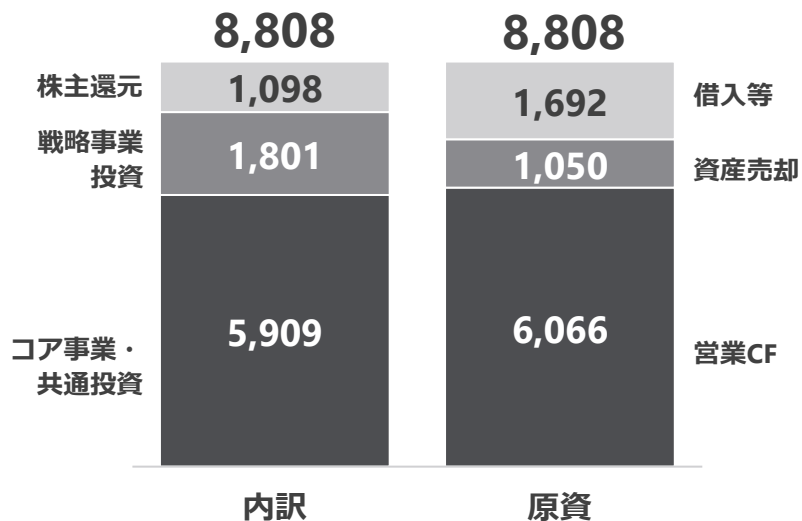
■ ライフサイエンス

- 合成医農薬CDMO
- バイオ医薬品CDMO

キャピタルアロケーション方針

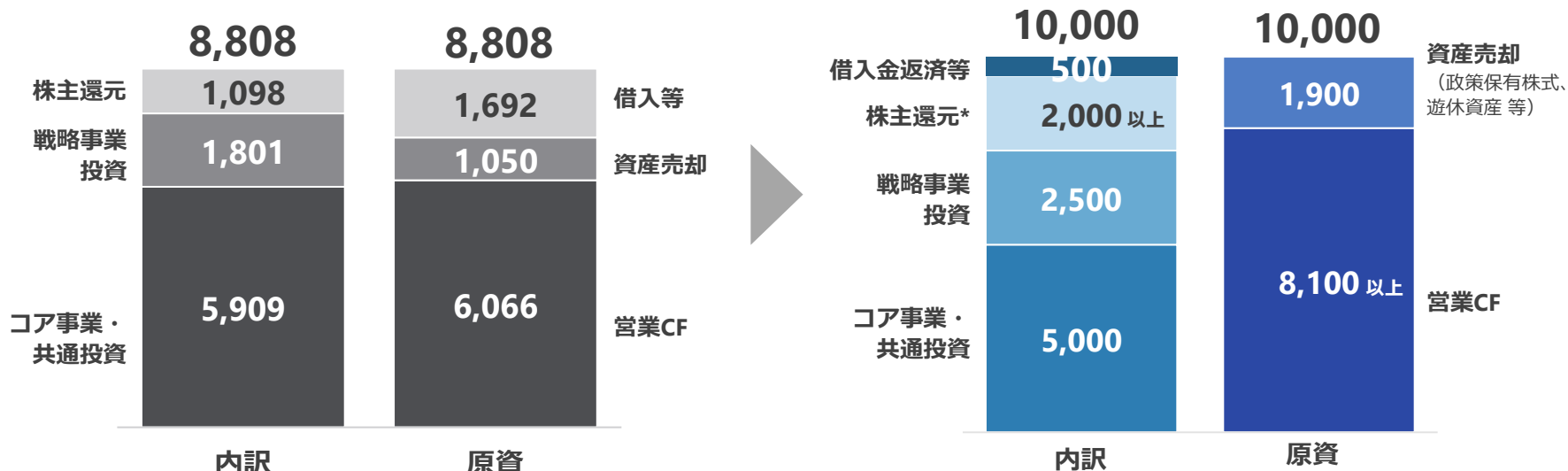
- 戦略事業・成長事業へ積極投資
- 資産売却を**加速**、政策保有株式は全銘柄が**縮減対象**

前中計期間 2018~2020年度



2021~2023年度

(単位：億円)

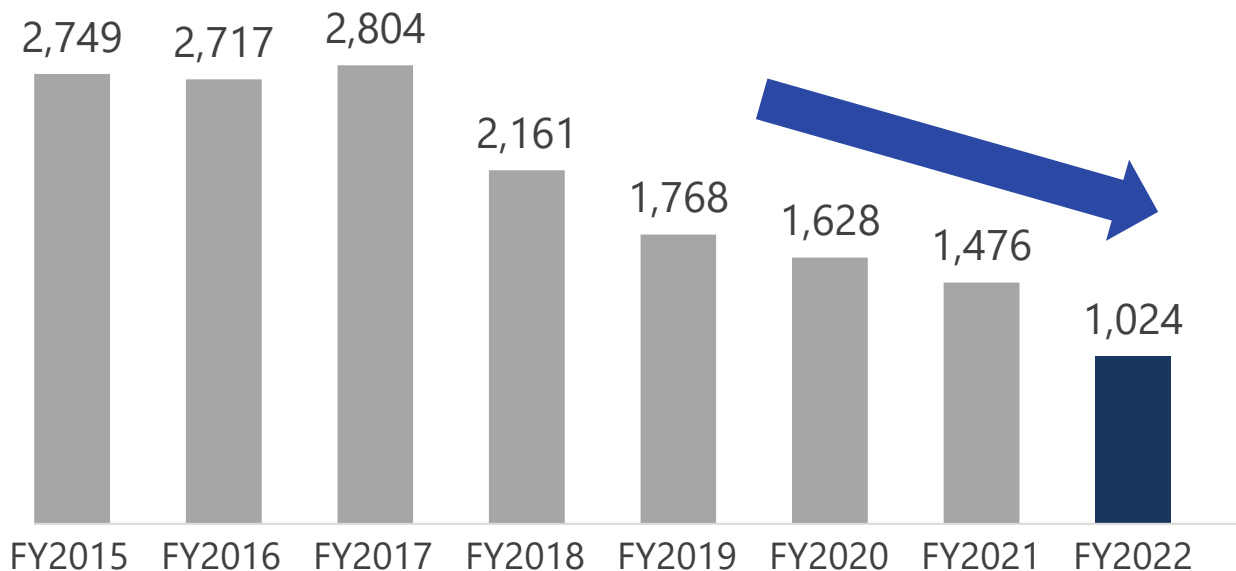


*: 非支配持分株主への配当金の支払額を含む

ご参考：政策保有株式残高の推移

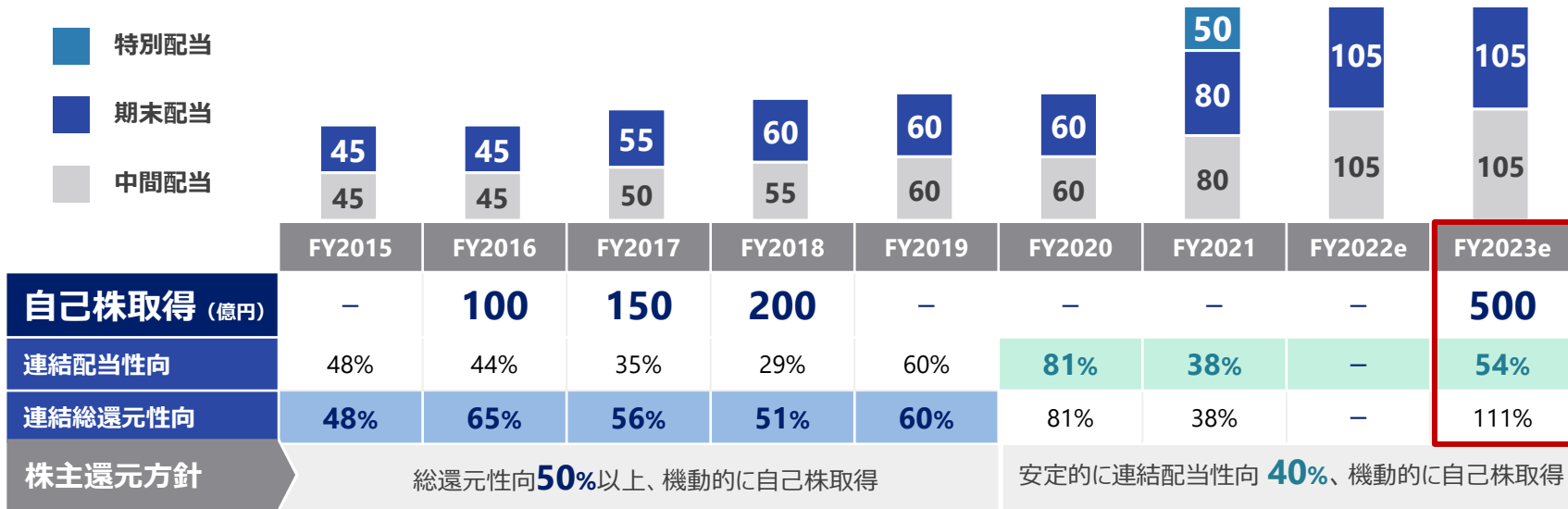
- 政策保有株式は全銘柄を縮減対象として原則保有しない方針
- 2022年末における保有状況は81銘柄、1,024億円。今後も積極的に縮減を進める

政策保有株式残高* 推移 (億円)



- 中期的な業績成長を鑑み、2022年は1株配当金額を据え置く
- 2023年も配当は据え置いた上で、500億円の自己株取得を実施する予定

1株当たり配当金額推移（円）



* AGCは2017年7月1日付で普通株式5株を1株に併合しています。これに伴い、1株当たり情報を再算定しています。

2030年のありたい姿 実現に向けて

The logo for AGC, consisting of the letters 'AGC' in a bold, blue, sans-serif font. A small red square is positioned to the right of the letter 'G'.

AGC株式会社

2023年2月8日

Your Dreams, Our Challenge

はじめに

社会的価値と経済的価値の両立により成長

独自の素材・ソリューションの提供を通じてサステナブルな社会の実現に
貢献するとともに継続的に成長・進化するエクセレントカンパニーでありたい

企業価値向上

社会的価値



5つの社会的価値の創出

サステナビリティ経営の推進



経済的価値



安定的にROE10%以上

事業ポートフォリオ変革

2030年のありたい姿実現に向けて

ー事業ポートフォリオ変革

ーサステナビリティ経営の推進

2016年2月に「2025年のありたい姿」を公表

既存事業を「コア事業」、成長事業での新事業群を「戦略事業」と定義し、
両利きの経営を推進



2021年2月に「2030年のありたい姿」を公表

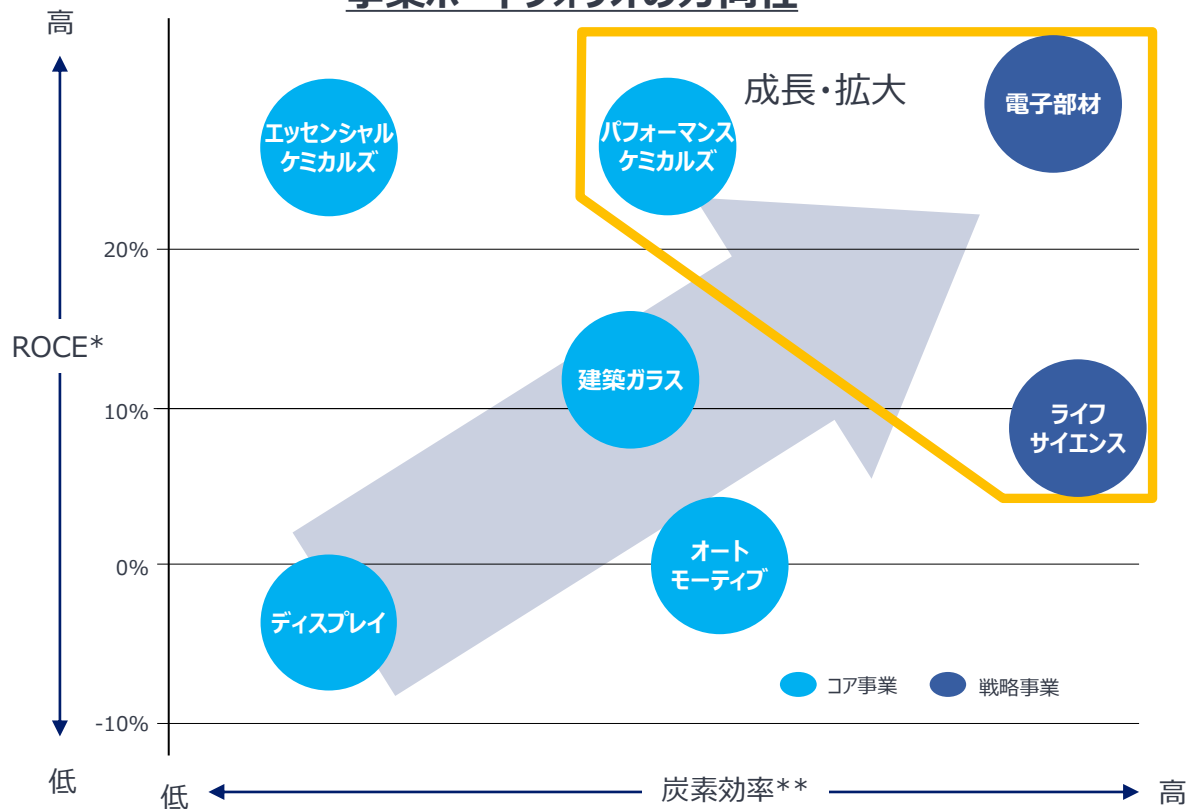
事業ポートフォリオ変革の方向性を明確にし、さらに加速することを宣言

- 両利きの経営の推進により、市況変動に強く、資産効率・成長性・炭素効率の高い事業ポートフォリオの構築を目指す



事業ポートフォリオ変革の進捗（炭素効率・資産効率）

事業ポートフォリオの方向性

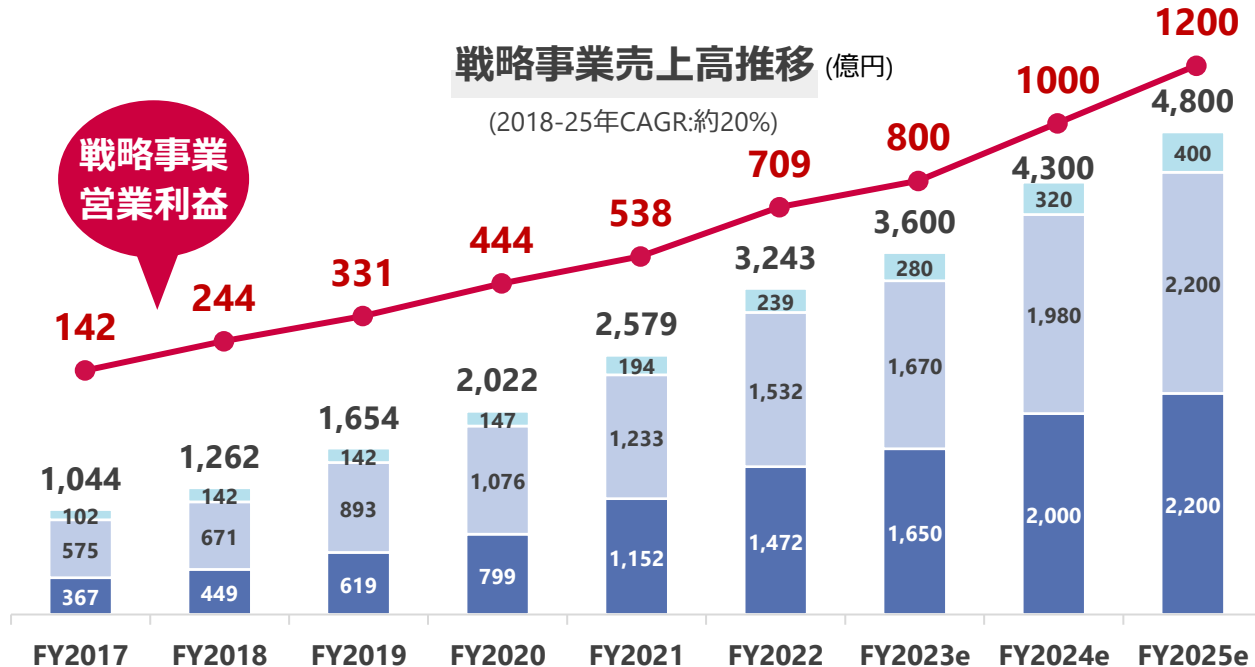


* : 2022年ROCEをもとに作成

** : 2022年売上高あたりの2021年排出量をもとに作成

戦略事業を積極拡大

- 事業ポートフォリオの方向性に完全合致する戦略事業を積極拡大
- 2023年はスマートフォンの減速、能力拡大に伴う先行費用の発生から、成長は鈍化する見込みだが、2024年に成長軌道に戻り、営業利益1000億円の達成を目指す



主な製品・事業

モビリティ

- 車載ディスプレイ用カバーガラス
- モビリティ新規部材 (含5G通信)

エレクトロニクス

- 半導体関連部材
- オプトエレクトロニクス用部材
- 次世代高速通信用部材
- エレクトロニクス用フッ素製品

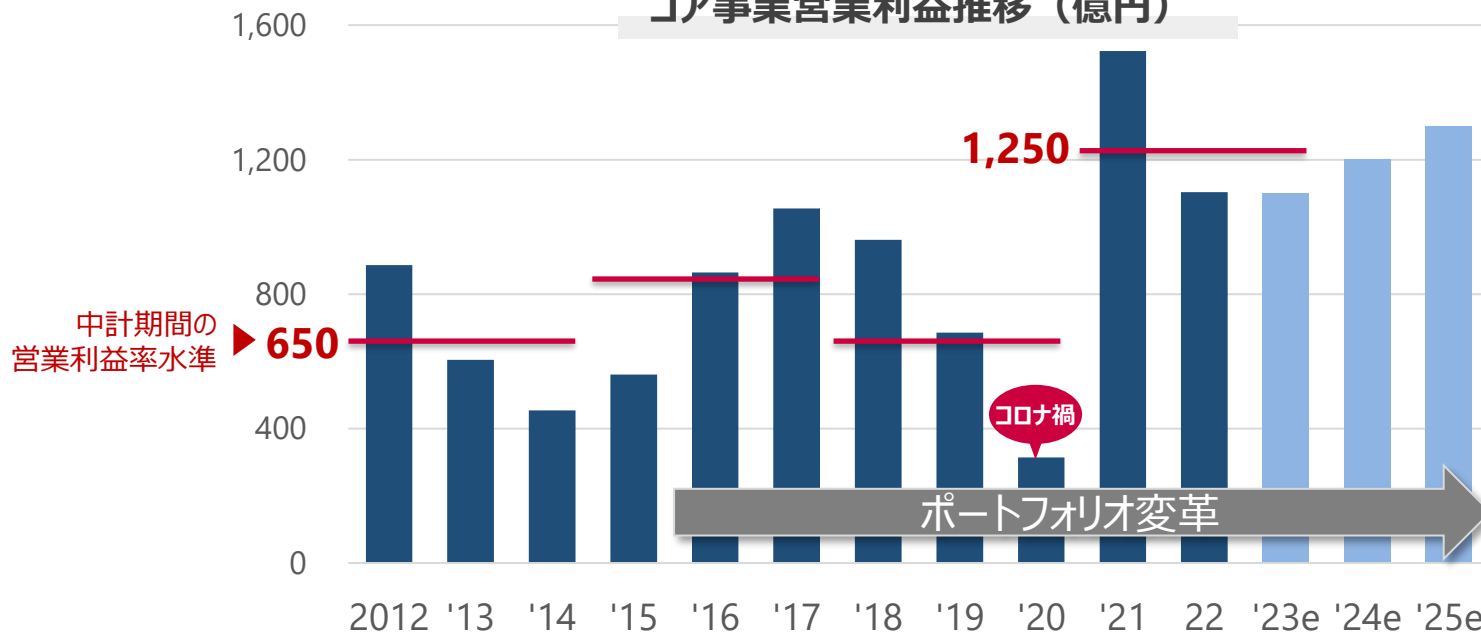
ライフサイエンス

- 合成医農薬CDMO
- バイオ医薬品CDMO

コア事業の構造改革進展

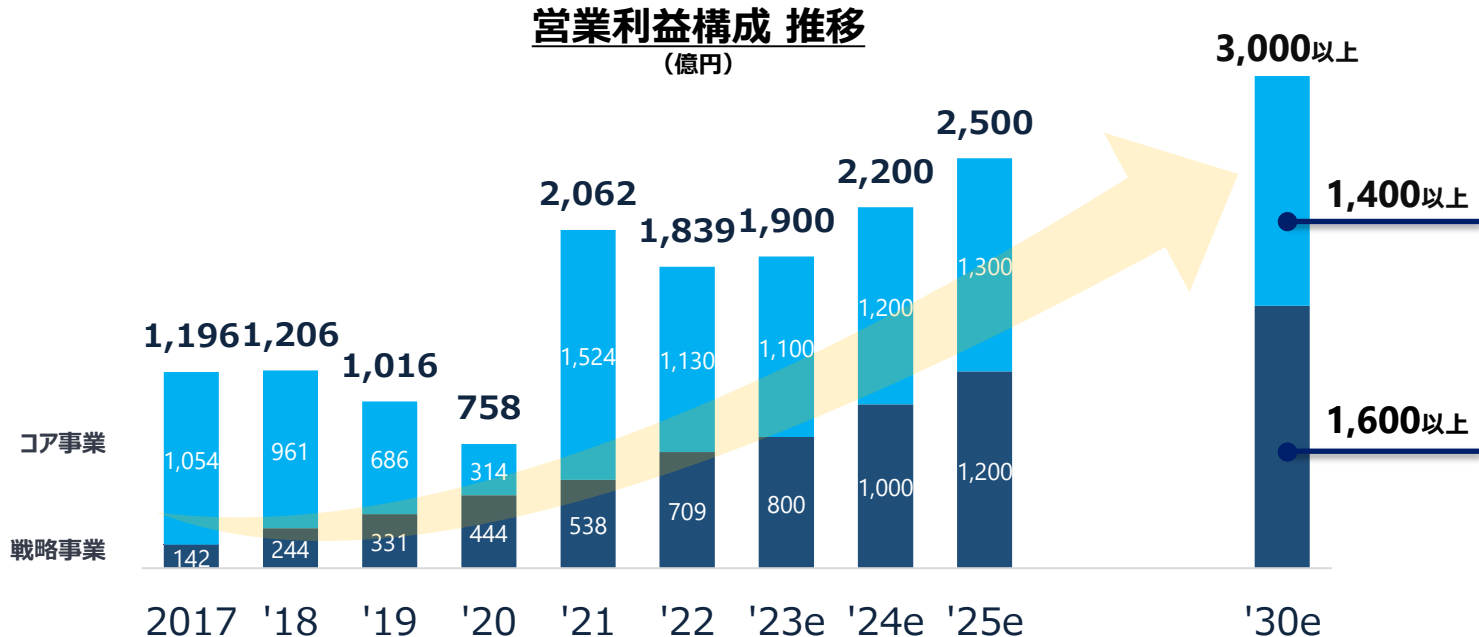
- 構造改革実行、投資を成長事業中心に厳選し、コア事業全体の収益性が向上
- 資産効率、炭素効率をさらに改善し、より高いレベルの安定収益の実現を目指す

コア事業営業利益推移（億円）



事業ポートフォリオ変革のイメージ

- 炭素効率、資産効率の高い戦略事業が順調に拡大
- 2030年までに戦略事業の利益が全社の50%超となり、ポートフォリオ転換がより顕著に



各コア事業の構造改革進展



化学品*

- 市況変動の影響を受けるも、拡大投資が奏功
- 事業ポートフォリオ変革前の利益レベルを上回り、資産効率・安定性が向上



建築ガラス

- 市況変動の影響を受けるも、構造改革の進展により事業ポートフォリオ変革前と比べ資産効率・安定性が向上



オートモーティブ・ディスプレイ

- 収益性・資産効率に課題を残す

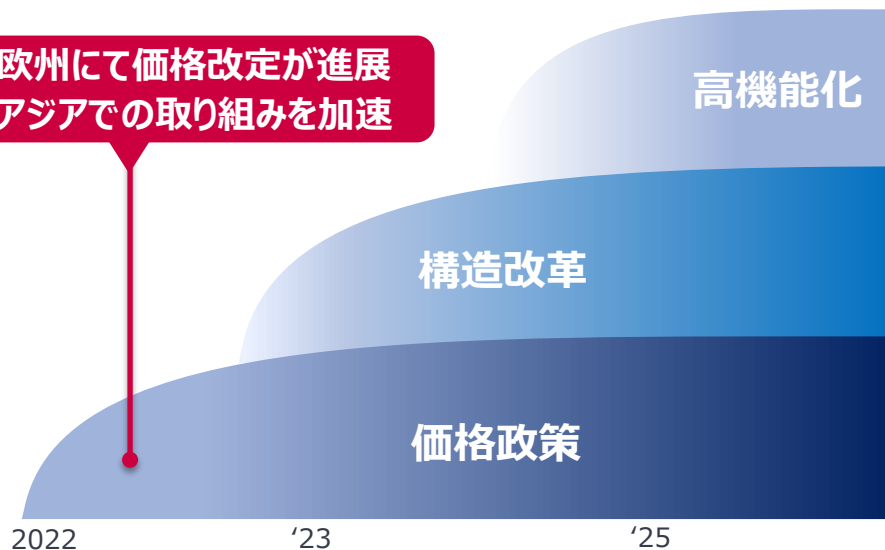
化学品、建築ガラスの取組みを継続、オートモーティブ・ディスプレイの抜本的構造改革を進め、コア事業全体のさらなる収益向上と安定化を目指す

オートモーティブ事業の収益改善

- 価格改定や出荷増により2023年に180億円の営業利益改善を見込む
- 欧州事業は生産拠点・生産ラインの統廃合推進、価格改定効果などで2023年に黒字化
- 2025年にROCE 10%以上を目指す

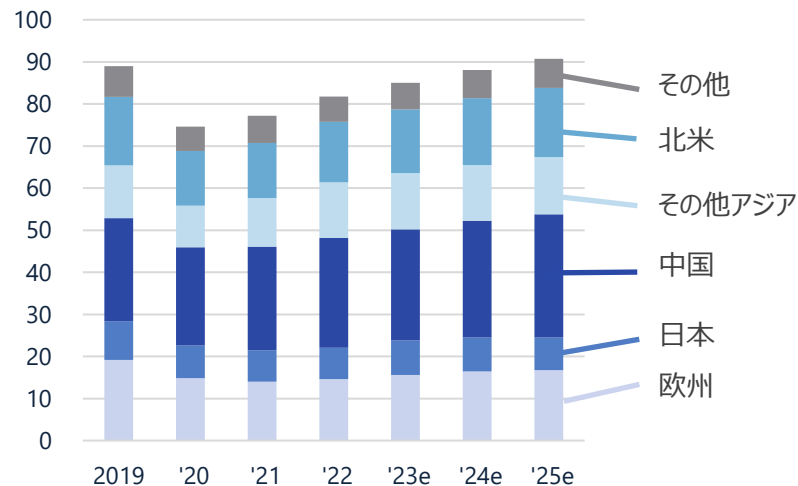
収益改善策の進捗

欧州にて価格改定が進展
アジアでの取り組みを加速



グローバル自動車生産台数 推移*

(百万台)



*S&P Global データを元に作成

- 抜本的な構造改革を断行
- ROCE10%達成に向け、事業を再生

2022年の環境変化

パネル需給調整

- TV等、巣ごもり需要の反動

原燃材料の高騰・急激な円安の進行

- 原燃材料高・アジア通貨高による製造コスト上昇

- 資産効率が大幅に悪化
- 700億円強の減損損失を計上

収益改善策

- 低収益のサイズのガラス基板事業から撤退し、大型パネル用ガラス基板事業に集中
- 生産ラインの統廃合を含めた抜本的な事業構造改革を推進
- 大型パネル用ガラス基板事業集中に必要な投資のみ厳選、その他投資は凍結
- 早期にROCE 10%への道筋をつける

ガラス構造改革

- 事業ポートフォリオを見直す中、ベストオーナーへの事業譲渡を実施
- フロート窯を削減し、炭素効率を改善
- 構造改革を加速するとともに省エネ技術・製品、高機能化にシフト

構造改革のまとめ

日程	発表	ステータス
2021.8	北米建築用ガラス事業の譲渡完了	完了
2022.5	米国ソーダ灰製造販売会社の株式譲渡を発表	完了
2022.12	中国建築用・自動車用・産業用ガラス製造販売会社（大連）を譲渡予定	進捗中
2023.2	ロシアの建築用・自動車用ガラス事業の事業譲渡検討を開始	進捗中

サンゴバン社との共同開発により業界の脱炭素化に貢献

- サンゴバン社と板ガラス製造プロセスにおけるGHG削減を目的とした共同開発を開始
- 電気溶融比率を向上させるとともに酸素燃焼を組み合わせる画期的な新プロセス(窯)の実証実験を2024年下期に開始



新たなイノベーションを創造し
板ガラス業界の脱炭素化を加速

CDP 気候変動分野「Aリスト」に選定、SBT認定 取得

- 先進的な取り組みと積極的な情報開示が高く評価され、CDP気候変動分野で「Aリスト」に選定
- 2022年12月にSBT*認定を取得

<CDP気候変動分野評価>



<SBT認定書>



2030年のありたい姿実現に向けて

—事業ポートフォリオ変革

—サステナビリティ経営の推進

—人財と企業文化の継続的な進化

- 創業以来、「人財」を大切にするとともに「チャレンジ」を奨励する中で培ってきた企業文化により、競争優位性を築く

【創業の精神】

- 易きになじまず難きにつく
- 人を信ずる心が人を動かす
- 世界に冠たる自社技術の確立を
- 開発成功の鍵は使命感にあり

企業文化のもとに培われた「人財」のAGC

- 一人ひとりが、持てる仕事能力を最大限に発揮し、個々人の総和が強い組織をつくりだし、事業戦略や組織目標が実現され、会社と個々人の成長を生み出している



- チャレンジを奨励し、風通しのよい企業文化を醸成することを経営の最優先事項の1つに位置づけ、経営層が活動に強くコミット
- 2022年は海外拠点訪問も再開し、対面での対話を拡充



多様性：ダイバーシティ推進施策（1）

- 多様な人財が、個々人の能力を最大限に活かす環境を整備するため、2022年にダイバーシティ・カウンシルを設置。ダイバーシティ推進施策を加速

ダイバーシティ推進施策

- CEOを議長とするダイバーシティ・カウンシルを2022年に設置
- 執行役員の個人目標にダイバーシティに関する項目を設定
- 女性役員・女性執行役員数の目標を設定

ダイバーシティ・カウンシル概要



多様性：ダイバーシティ推進施策（2）

- 特に日本の社会課題となっているジェンダー関連では、女性活躍にかかわる目標を設定し、着実に推進

女性活躍に関する2030年目標

女性役員比率

30%

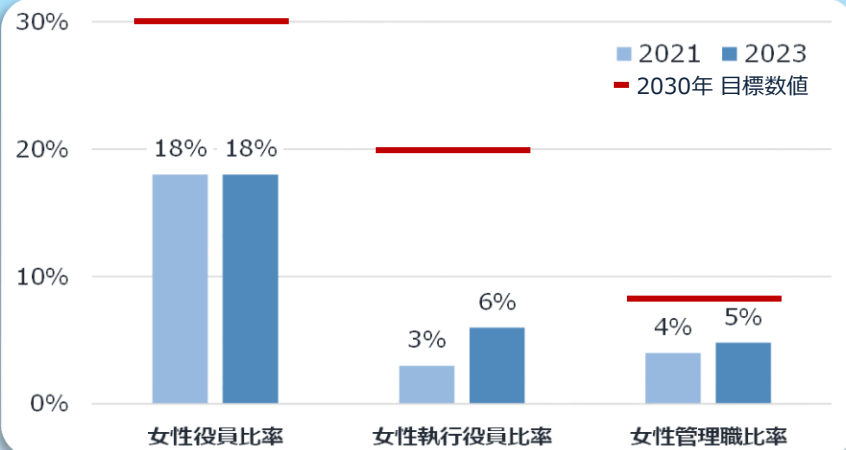
女性執行役員比率

20%

女性管理職比率*

8%

進捗状況



女性活躍推進* 取り組み例

- 2022年に採用における女性比率目標の引き上げ

	従来	現在
新卒	20%	30%
キャリア	10%	15%

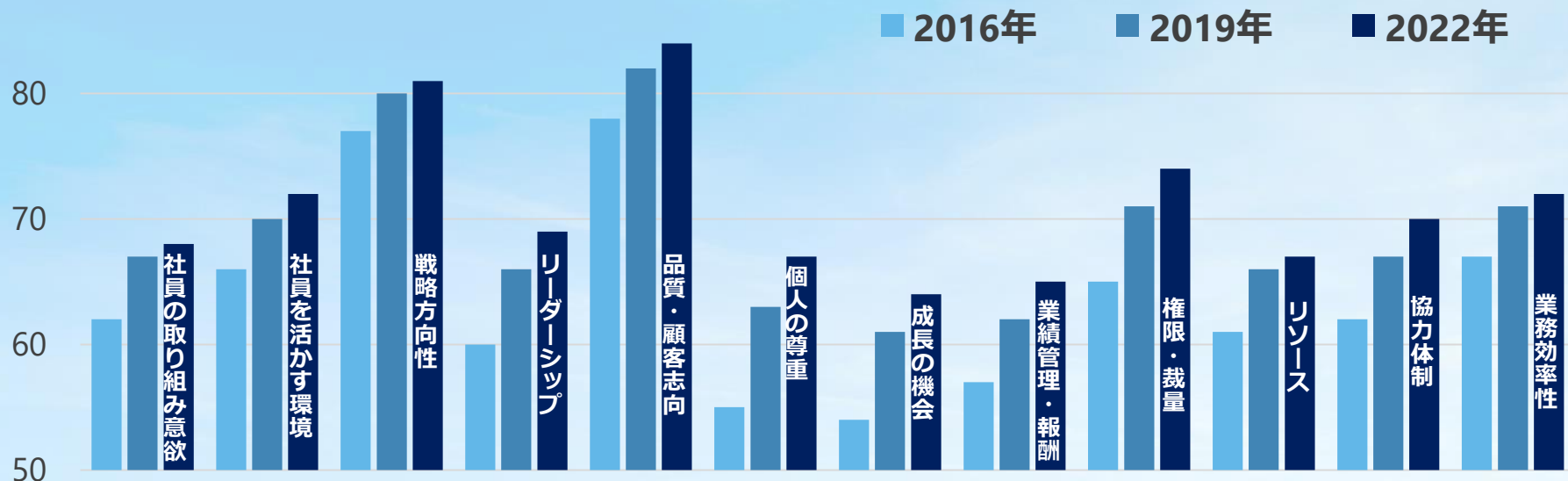
- ダイバーシティ研修、アンコンシャスバイアス研修の実施
- 個別育成計画にもとづく育成プログラムの実施
 - 女性部長級への役員メンター制度
 - 社外女性役員との対話会
 - ポテンシャル人財の社外女性リーダー育成プログラム参加

など

従業員エンゲージメント：更なる向上を目指す

- 競争優位性の維持・向上に従業員エンゲージメントは不可欠
- 2019年エンゲージメント調査に続き2022年も全ての項目でエンゲージメントスコアが改善
- 2030年までにグローバル好業績企業平均と同等のエンゲージメントスコア達成を目指す

エンゲージメント調査*結果の推移



終わりに

- 社会的価値と経済的価値の両立により「2030年のありたい姿」を実現

独自の素材・ソリューションの提供を通じてサステナブルな社会の実現に貢献するとともに継続的に成長・進化するエクセレントカンパニーでありたい

企業価値向上

社会的価値



5つの社会的価値の創出

サステナビリティ経営の推進

経済的価値



安定的にROE10%以上

事業ポートフォリオ変革



AGCブランドステートメント：

易きになじまず難きにつく
人を信ずる心が人を動かす
世界に冠たる自社技術の確立を
開発成功の鍵は使命感にあり

A G Cは、この創業の精神を礎に、
お客様とゆるぎない信頼関係を築きながら、
独自の素材とソリューションで、
時代のトップランナー達を支えてきました。

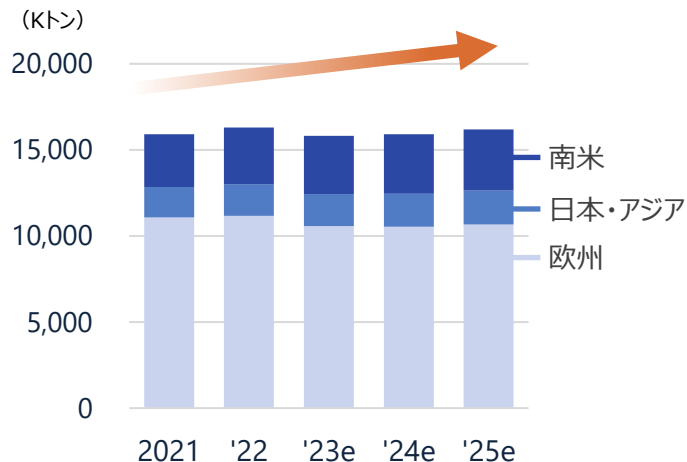
私たちはこれからも、互いの知見や技術を掛け合わせ、
人々の想いの先、夢の実現に挑んでいきます。

Your Dreams, Our Challenge

付属資料

- 環境対応が求められる中、**リノベーション需要・環境貢献製品需要が増加**
- 省エネ・創エネにつながる高付加価値製品に注力し、景気変動の影響を受けにくい事業体質の構築を目指す

建築用ガラス需要見通し*



環境貢献製品（例）



ウォームエッジ
高断熱複層ガラス



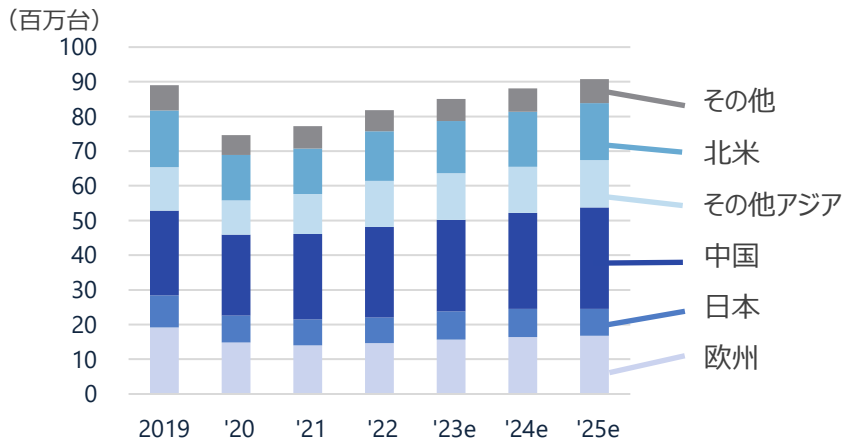
真空断熱ガラス



建材一体型太陽光
発電モジュール**

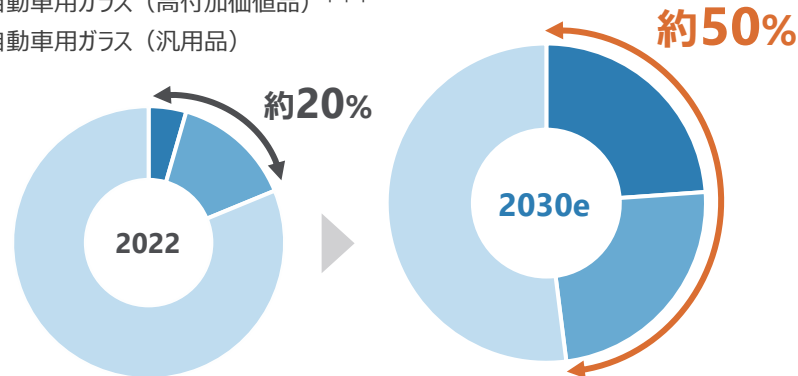
- 価格政策の見直し、生産体制の再編、設備の高効率化、DXの推進により、損益分岐点を引き下げ、市況変動に強い体質を作る
- CASE関連など高付加価値品比率を高め、収益性を向上

グローバル自動車生産台数 推移*



当社 高付加価値品比率の推移

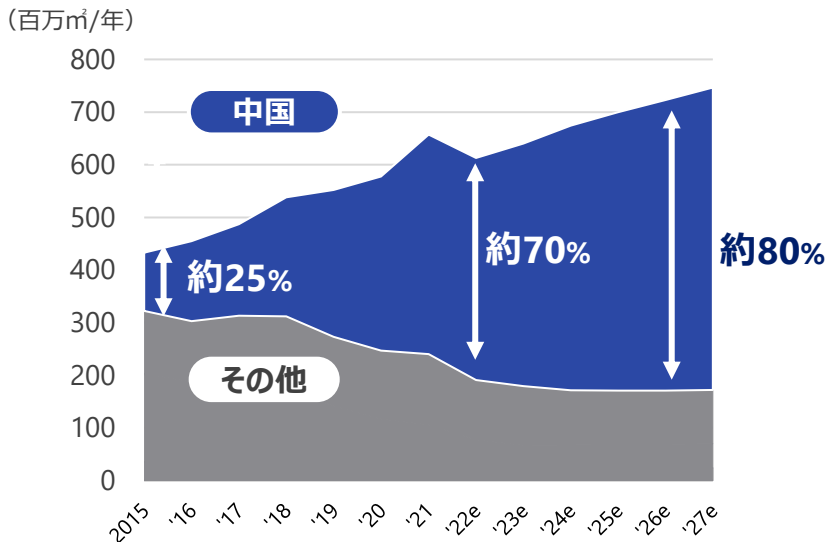
- モビリティ製品 **
- 自動車用ガラス (高付加価値品) ***
- 自動車用ガラス (汎用品)



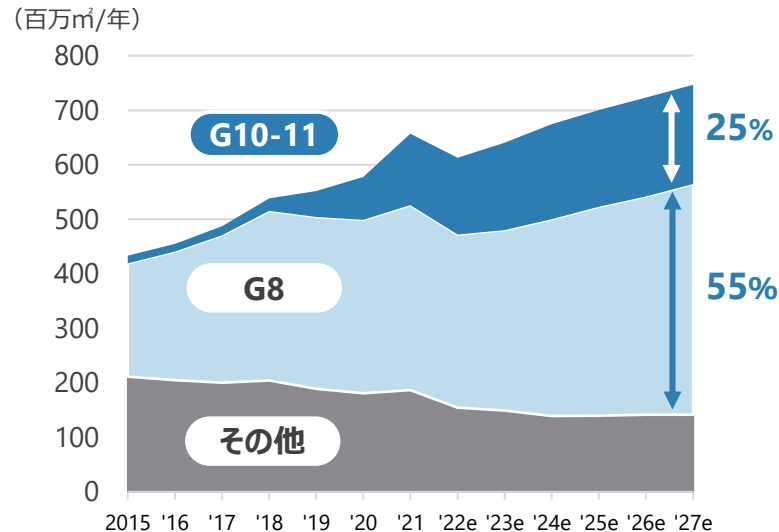
* : S&P Global データを元に作成 ** : 車載ディスプレイ用ガラス、センサー等 *** : 調光、遮音、HUDなど付加価値を付けた商品

- 今後も**中国での需要は更に拡大**
- 中国でのG11サイズ需要増に対し、設備能力増強で対応

液晶用ガラス需要推移（地域別）



液晶用ガラス需要推移（世代別）

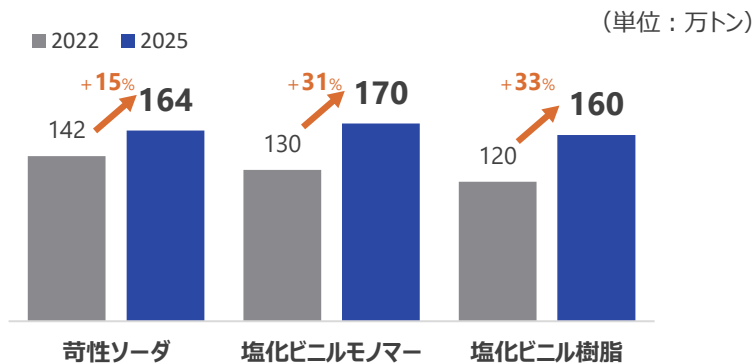


出典：AGC推定

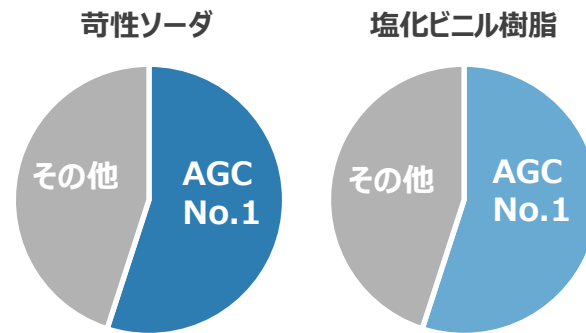
エッセンシャルケミカルズ 概要

- 東南アジアにおけるインドシナ3拠点の再編・統合を実施し、当社として過去最大規模となる約1,000億円の投資を決定
- 東南アジアでの当社ポジションは更に上昇
- 年率4%で成長する東南アジア地域の需要を着実に捕捉
能力増強を継続検討し、2030年までには年産200万トンレベルの生産体制を目指す

東南アジアクロールアルカリ生産能力 推移



東南アジア生産能力ベースのシェア（増設後）



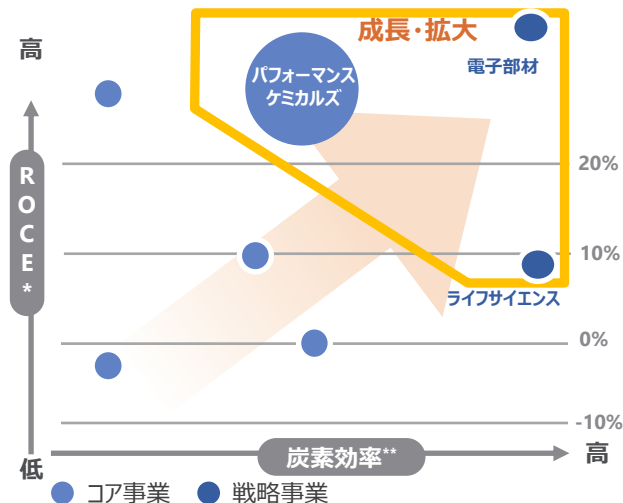
生産能力ベースシェア：苛性ソーダは域内に豪州/NZを含まず、塩化ビニルは域内に豪州/NZを含む

パフォーマンスケミカルズ 概要 (1)

- 資産効率・炭素効率ともに高い**成長事業**
- **高い技術特性**が求められるグローバルニッチ市場で高い評価を獲得
- 2024年には**売上高2,000億円以上**を見込む

事業ポートフォリオにおける位置づけ

ROCE、炭素効率ともに高く、**成長事業**の位置づけ



グローバルニッチトップ戦略

フッ素の特性を用いた**技術開発に強み**

世界 No.1***シェア



ETFE樹脂
(フッ素樹脂)



燃料電池膜用
フッ素系電解質ポリマー



現場塗装
塗料用フッ素樹脂

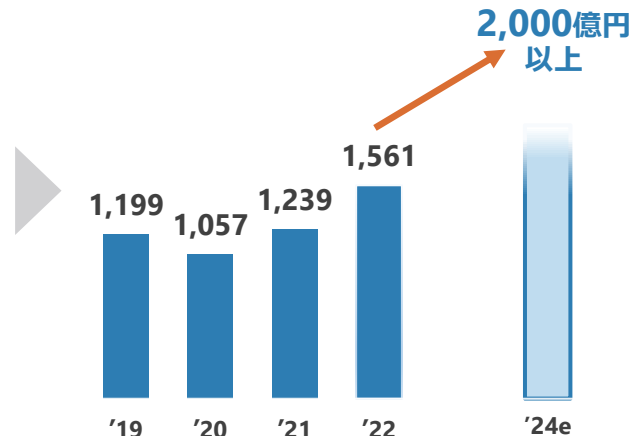
*2022年ROCEをもとに作成

** 2022年売上高あたりの2021年排出量をもとに作成

***2023年1月時点当社推定

パフォーマンスケミカルズ売上高 推移

(単位：億円)

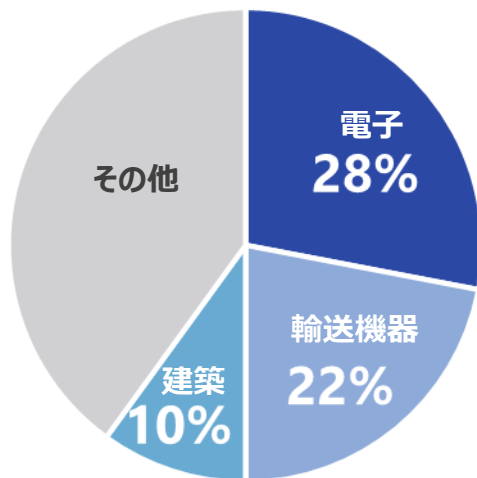


パフォーマンスケミカルズ 概要 (2)

- 需要の約6割は、主用途である電子、自動車、航空機などの輸送機器、建築分野
- 残りは多様且つ特殊な分野の需要の積み上げから成り立っている

用途別売上高比率 (2022年) *

*一部製品の分類見直しを実施



電子



輸送機器



建築



- 多品種型の市場において信頼をベースに**継続的なビジネス関係を構築**
- 医薬品CDMO市場の**高い成長を確実に捕捉**

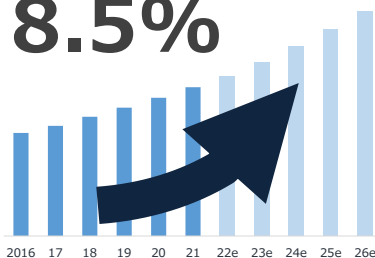
市場

医薬品原薬CDMO市場規模推移

2020-2026年

CAGR

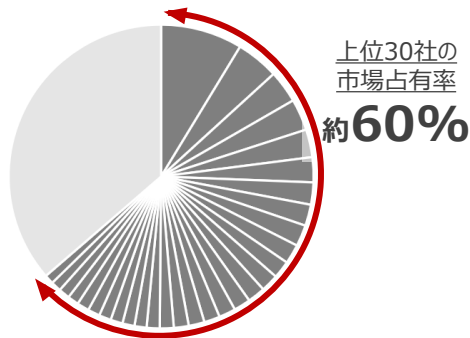
8.5%



- ・製薬業界の外注化の動きを受け、CDMO市場は着実に拡大

業界構造

商用医薬品原薬受託シェア(品目数)*



- ・お客様が非常に細分化されていることを背景に、CDMOも非常に細分化されており、半導体業界のように少数の企業に業界が収斂しない
- ・商用医薬品の受託は一般的に10年以上の単位で継続

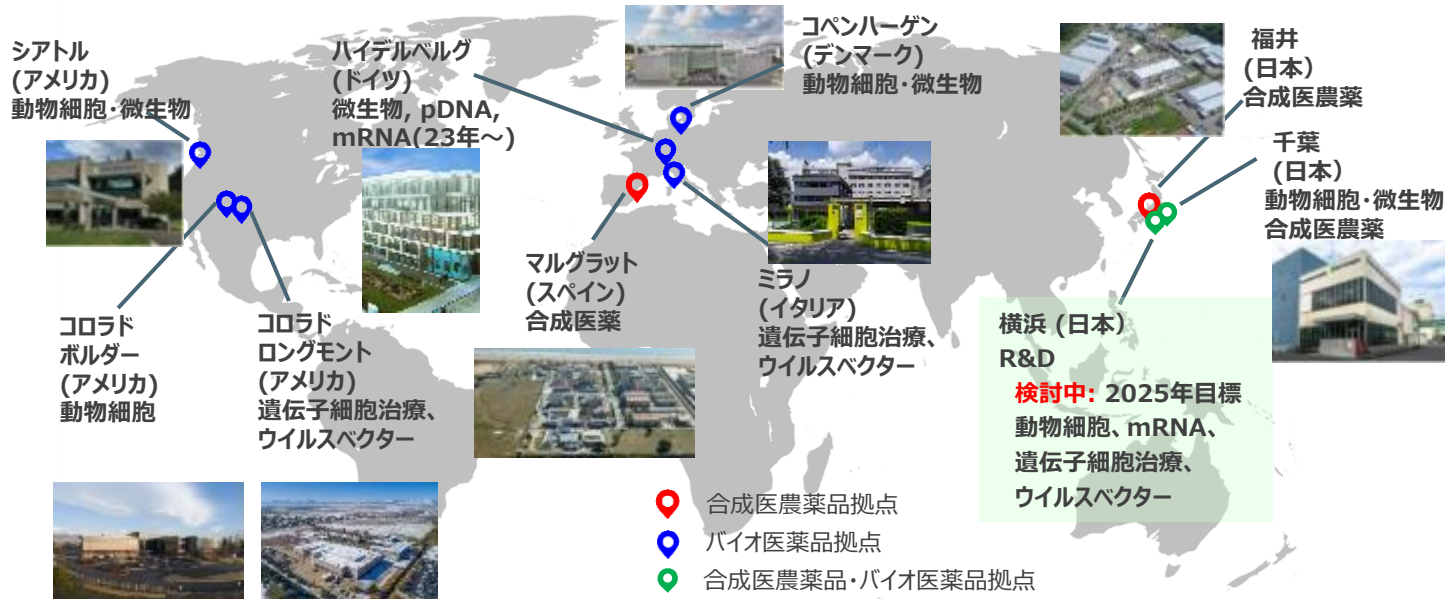
自社

AGCの強み

- ・少量多品種に最適なシングルユースバック技術のパイオニアであり、大型ステンレス槽を用いた大規模スケールでの生産能力も保有
- ・日米欧3極の高いレベルのcGMP生産体制のもと、開発初期から商用まで一貫したサービスを提供
- ・高度な品質や技術開発力に基づく豊富な査察実績を有する



- 日本を主要拠点とする数少ないグローバルCDMOとして、日米欧3極の高いレベルのcGMP生産体制のもと、治験から商用まで化学合成/微生物/動物細胞/pDNA/遺伝子細胞治療など幅広いサービスを展開



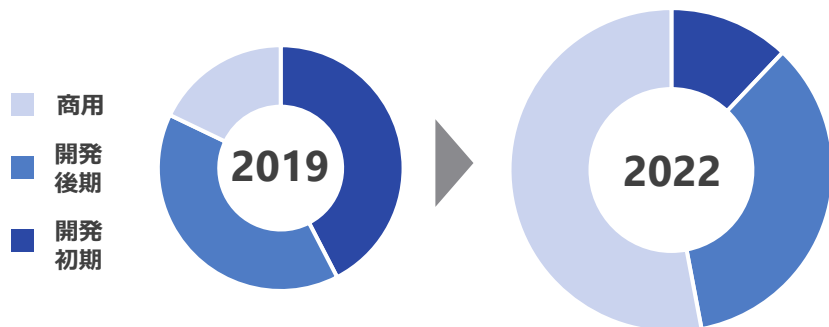
- 日米欧3極で当局査察実績のあるcGMP*体制を持ち、**高品質かつ均一なCDMOサービスを提供**
- 少量多品種対応が可能なSUB**と大規模案件に最適なSUS***を組み合わせ、開発案件から商用製造に至るまで**バランスよく受託**

*cGMP:最新の医薬品および医薬部外品の製造管理及び品質管理の基準

**SUB: シングルユースバック培養槽

***SUS: ステンレス培養槽

バイオ医薬品CDMO受託割合（金額）



当社のバイオ医薬品CDMO生産体制

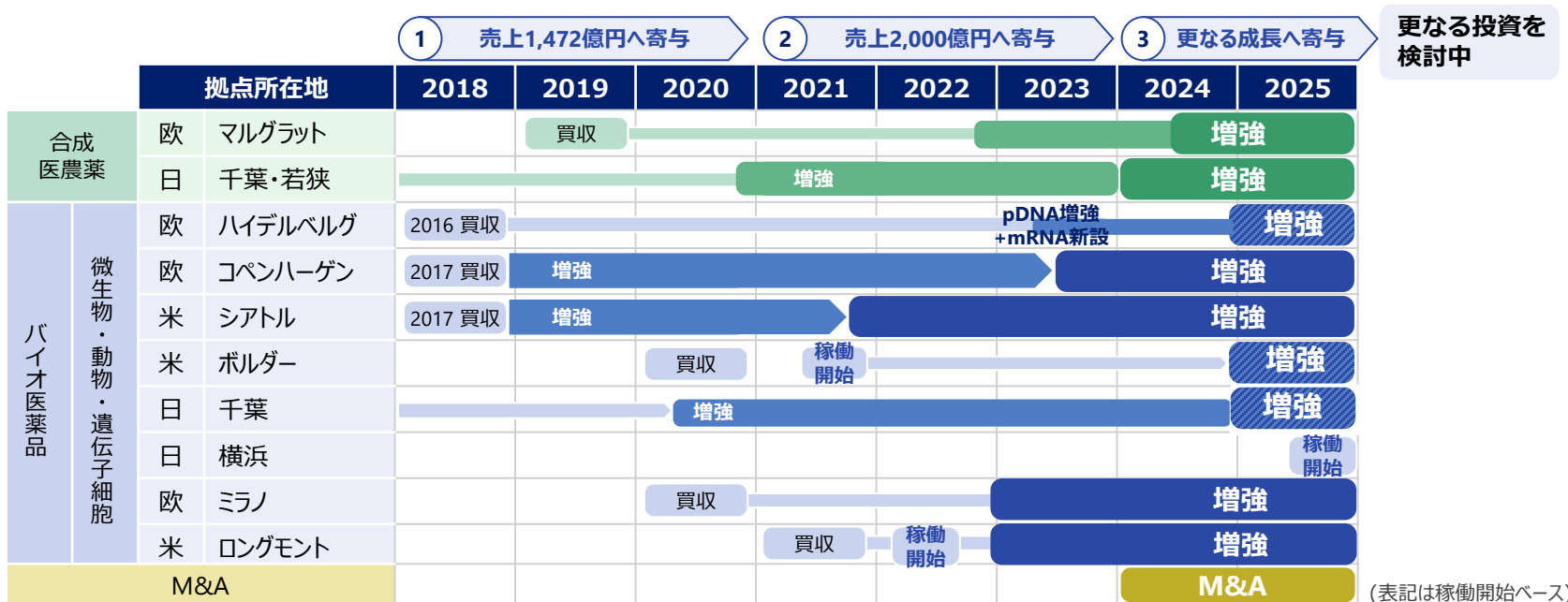


ライフサイエンス 概要 (4)

① CDMO事業拡大のため積極的な投資を実施。当初の売上目標を4年前倒し
22年実績は1,472億円を達成

② 既に**売上高2,000億円達成への投資は意思決定済**。20年以降に実施した投資の売上への寄与が本格化

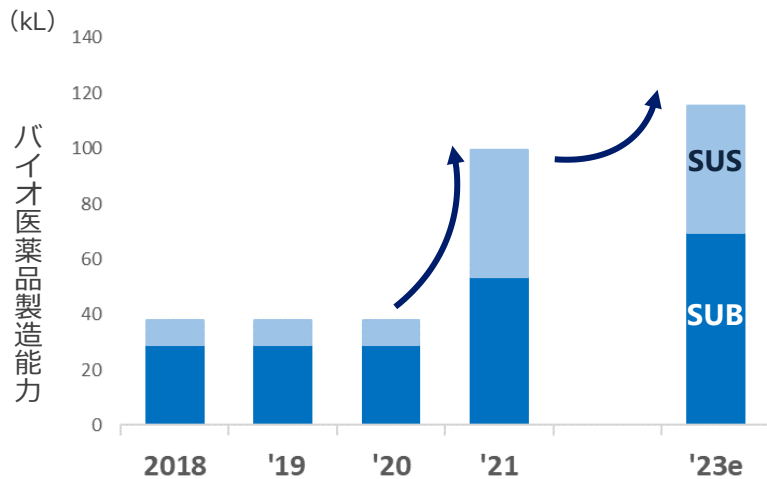
③ 更なる成長のため**引き続きM&Aと併せ各拠点での増強投資**を検討中



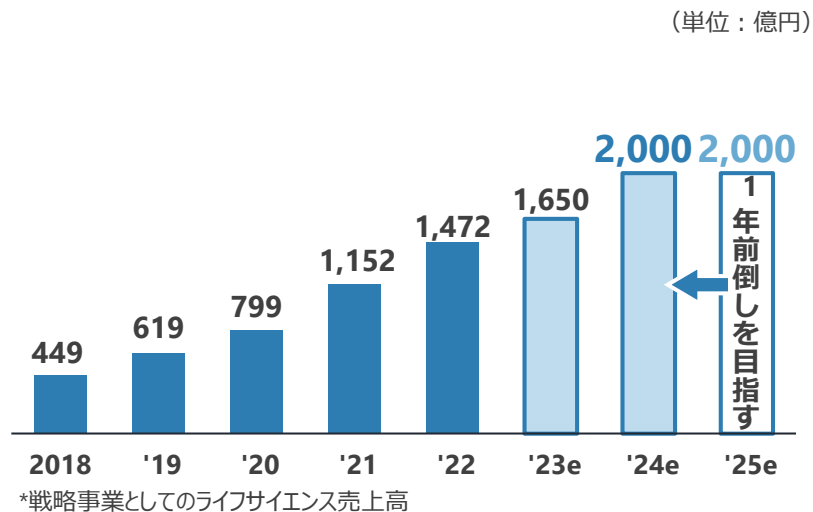
(表記は稼働開始ベース)

- 能力増強をタイムリーに実施していくことでバイオCDMO業界の成長を捕捉、更なる事業拡大を図る
- 2024年には当初見込みより **1年前倒しで売上高2,000億円達成を目指す**

バイオ医薬品CDMO製造能力(動物細胞のみ) 推移

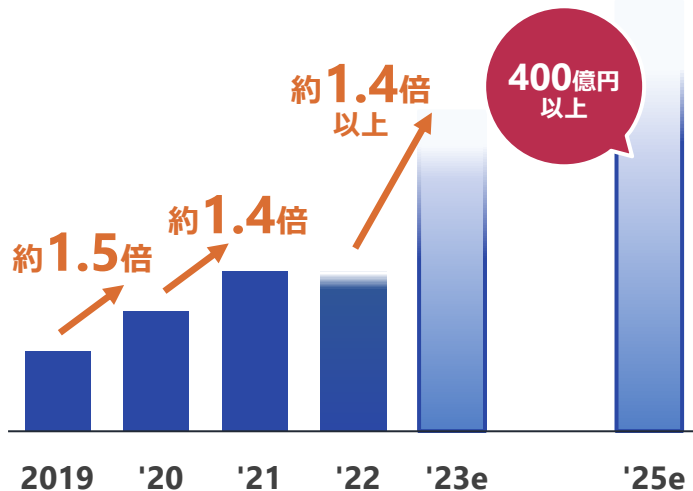


ライフサイエンス売上高* 推移

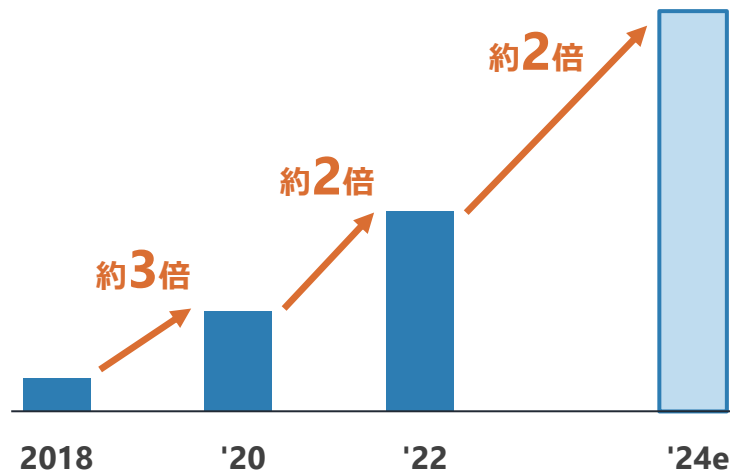


- EUVマスクブランクスはロジックに加えメモリーでも採用が増加
- 2022年に**EUVマスクブランクの生産能力を倍増**。2024年に更に倍増
- 今後も市場成長に合わせ積極投資を継続

AGCのEUVマスクブランクス売上高 推移



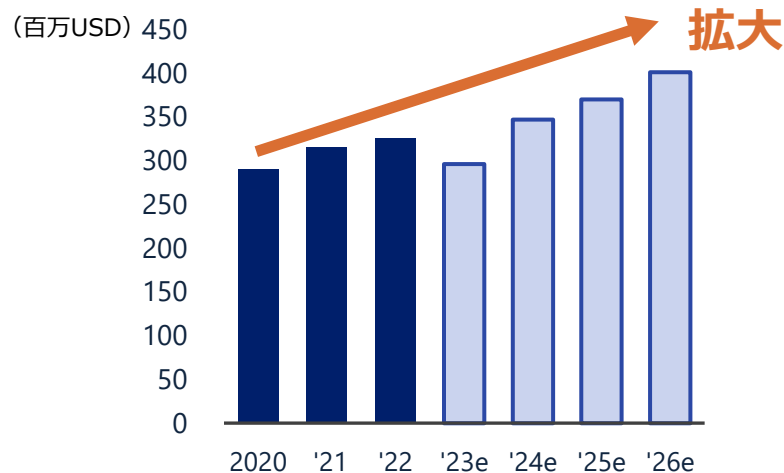
EUVマスクブランクス能力増強 推移



📦 CMPスラリー

23年は停滞するものの、適用層の増加などにより中長期的にはセリアスラリーの市場は拡大

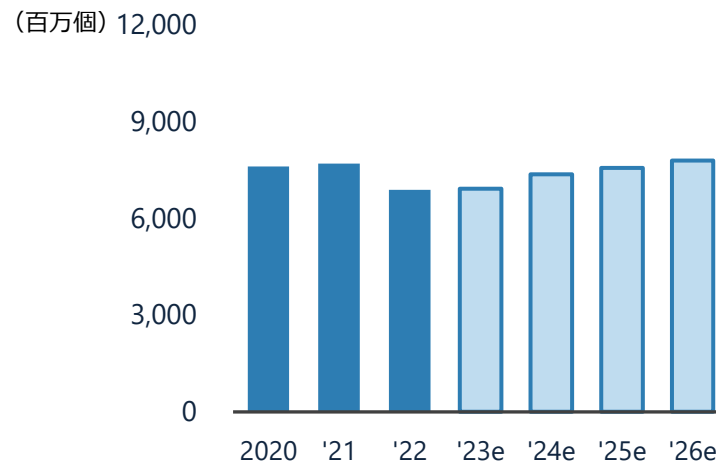
セリアスラリー市場



📱 オプトエレクトロニクス用部材

足元ではスマートフォン市場停滞の影響を受け、成長率は鈍化するものの、中長期的には市場回復により、搭載カメラ総数は増加

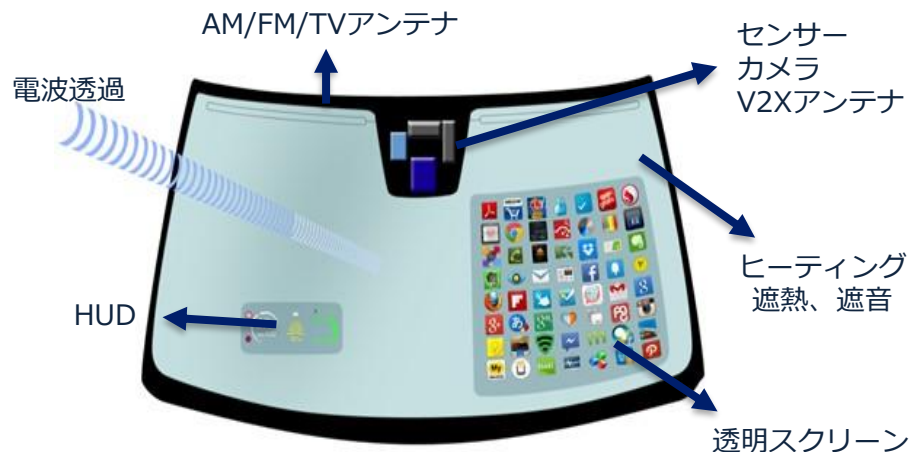
カメラ用イメージセンサー個数



出典：AGC推定

- **CASEによる市場変化**を見据え、事業機会を確実に捉える
- 中国で車載ディスプレイ用ガラス量産を開始し、収益貢献

自動車用ガラス



ガラスのディスプレイ化や通信機能付加などにより
素材だけでなくソリューションまで提供

車載ディスプレイ用カバーガラス



2019年発売のLEXUS「RX」
などに採用されており、
世界シェアNo.1

5G対応自動車用ガラスアンテナ



NTTドコモ、エリクソンと共同で
「ガラス一体型5Gアンテナ」
による5G通信に成功

予測に関する注意事項：

本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

この資料の著作権はAGC株式会社に帰属します。

いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。

The logo for AGC, consisting of the letters 'AGC' in a bold, blue, sans-serif font. A small red square is positioned between the 'A' and the 'G'.

Your Dreams, Our Challenge